

p.

22



文化芸術による
共生社会実現に向けた
基盤づくり事業

京都文学賞

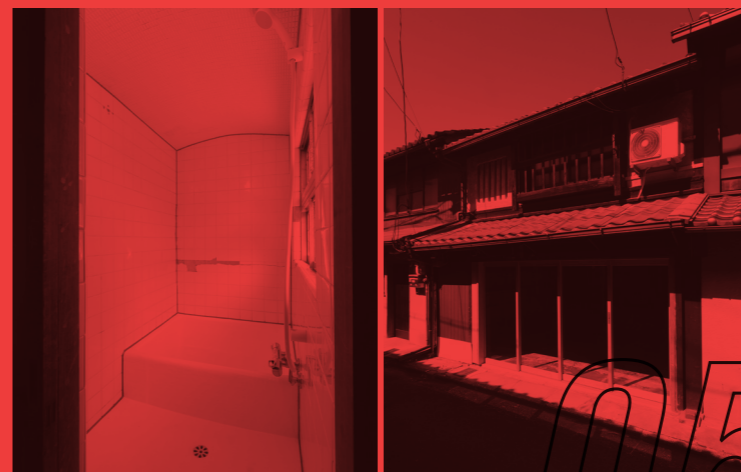
Kyoto Literature Award



京都文学賞

p.

03



HAPSの新拠点

p.

05

HAPS

Annual Report 2019

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス
事業報告書 2019年度



キュレーター招聘

神谷幸江 デビッド・テ



p.

16

p.

04



時代祭
織田公上洛列

六原自治連合会



HAPSスタジオ

Homesick Studio
マイケル・ウィッテル
川田知志
池田剛介



p.

26



ALLNIGHT HAPS
「PORTABILITY」

長門あゆみ 西永怜央菜 須賀亮平
藤本悠里子 新井優希

p.

18



ALLNIGHT
HAPS
「Kangaru」

黒木結・中熊友之
大西晃生・林美月
熊野陽平・荒木健志
YANKEECONG・村田のぞみ

p.

03

OLIVER'S MOTEL
オリジナルタオル



p.

17



OUR SCHOOL

Gうへうへ
舞妓プロジェクト

@NPO法人スウィング

p.

02



今年度、東山 アーティスツ・プレイ
スメント・サービス (HAPS) は大き
く変わりました。

最も大きな変化は事務局の社団法人化
になります。これまで任意団体だった
ものから本格的な事業体へと進化しま
した。より一層活動に力を入れ、邁進
していきます。

新たに始まった「芸術家×仕事コー
ディネート事業」、継続的に取り組ん
でいる「文化芸術による共生社会実現
に向けた基盤づくり事業」も、昨今の
HAPS を特徴付けるユニークなプログ
ラムになってきました。「アーティスト
のためにできること」から始まった
HAPS が、それを維持しながらも、
「社会のためにできること」へ、その
届く範囲を大きく広げようとしていま
す。来年度はもっとエキサイティング
な年になるはずです。皆様ご支援ご協
力の程、引き続きよろしくお願いた
します。

遠藤水城 (HAPS実行委員長)



HAPS

Annual Report 2019

HAPS事業報告書 2019年度



「利用者さんを楽しませたい!」という依頼から、特別な「舞妓さん」を派遣。

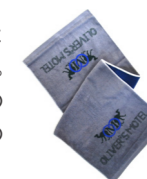
Gらへうへ舞妓プロジェクト | 2019年6月～継続中 | @NPO法人スウィング

「スウィングに来ることが生き甲斐である81歳の利用者Gさんをなんちゃって舞妓遊びで楽しませたい!」という、具体的でありながら、創造性の幅がある依頼が、NPO法人スウィングさんからありました。NPO法人スウィングさんといえば、型破りな発想を取り入れた生活介護事業に取り組む障害者福祉施設です。代表の木ノ戸昌幸さんにHAPSに相談を持ちかけた理由を聞くと「面白がってくれそうだから」とのことでした。

実際の舞妓さんに依頼する一過性のものでなく、継続性のあるプロジェクトとして行いたいという希望に沿うべく、HAPSから2名の俳優を紹介。彼女たちに舞妓さんになっていただくことに。2019年の5月に依頼があったこのお話は、6月には最初の訪問をするというスピード感で進んでいきました。それから半年以上、定期的に「舞妓さん」が訪れ、「Gさんが喜んでくれるだけでなく、着物や飾りを調達したり、髪結いやお化粧、板前などの仕事が創出され、スタッフや他の利用者さんたちも巻き込まれることで、様々な活気を生んでいる」と木ノ戸さんは話します。今後、舞妓さんと外へ出ていく計画も画策中だそうで、今後の発展にも期待が高まります。



NPO法人スウィングさんとは、オリジナルグッズの製作という依頼も受けて、別プロジェクトとしても今年度に行進。京阪三条にてアーティストが営むバー「みず色クラブ」とのコラボレーションの末、「OLIVER'S MOTEL」という架空のモテルをイメージしたタオルが完成しました。



「京都文学賞」のロゴ、広報用のイラストレーションを制作。

京都文学賞 | <https://www.koubo.co.jp/system/contest/kyoto/>

京都市が「世界文化自由都市宣言」40周年を機に創設した「京都文学賞」。そのロゴとイラストレーションの制作をHAPSでマッチングしました。イラストレーションは岡本秀さん、ロゴは高山燦さんに制作いただき、京都文学賞第1回作品・読者選考委員募集のリーフレット、ポスターなどに使用されました。

京都文学賞

Kyoto Literature Award



VOICE

松岡咲子さん
俳優



相手がわかっているのか、が、わからない。そもそも、リアクションがみえることがコミュニケーションをとれているということ、ではないのかもしれない。でも、Gさんに元気になってほしいという祈りだけで、私が舞妓を演る(やる)だけでなく、スウィングのいろんな人が役を持ち、準備をし、Gさんと舞妓のうへへなひととき/場を創り上げています。私はずっとゆらぎ続けていますが、いつも嬉しい気持ちになる、俳優修業のように感じています。

VOICE

山口恵子さん
俳優



Gさんは黄色いちゃんちゃんこを羽織り、一人でも食べられるのにわざわざアーンして「うまいよ!」と威勢よく答える。スウィングメンバーの増田さんは板前に扮してお昼を出し、アッキーさんは女将さんばりに「おこしやす」と舞妓を迎え入れる。そう、この企画で演じてるのは舞妓だけじゃないのです。ふと、誰が誰のために演じてるのか分からなくなることがありますが、こういう作画的なごっここのやりとりを日常の中で楽しめる場所って、意外とないかもなあ毎回楽しく出勤させていただいてます。

VOICE

岡本秀さん
美術作家



HAPSの方に仲介していただきながら、京都市とのやりとりを続けていくうちに、京都をゆかりにした色々な題材が盛り沢山のイラストになりました。見返してみても、自分でも発見のある興味深いものになり、とても嬉しいです。貴重な機会をいただけたことに感謝すると共に、少しでも広報のお役に立てていれば幸いです。

HAPS
TOPIC 2019

01

新しいヴィジョンを創る アーティスト×仕事の 事例を紹介します。

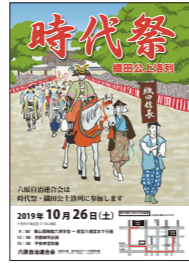
ここでは、HAPSの主催事業の一つである「芸術家×仕事コーディネート事業」(→p.21)によって実現した、アーティストの特性を活かした今年度の仕事のマッチング事例の一部を紹介します。

01

ポスター、映像、写真と、 時代祭にて六原学区に全面協力。

時代祭 | 2019年10月26日(土) | @京都御所~平安神宮

HAPSのオフィスが位置する東山区六原学区は、2019年の時代祭に「織田公上洛列」として参加しました。その際の行列への参加を告知するポスター、行列の映像、写真の撮影の3つの仕事の依頼がHAPSに寄せられ、ポスター制作をすずきあいさん、映像撮影を片山達貴さん、写真撮影を堀井ヒロツグさんとマッチングしました。



「京都文化芸術都市創生審議会」における、 市民委員募集リーフレットの制作。

募集期間:2020年1月17日(金)~2月14日(金)

京都市が設置する「京都文化芸術都市創生審議会」の市民委員の公募にあたって、「若い世代に京都市の文化行政に興味を持ってほしい」との依頼から、市民委員募集リーフレットの制作をマッチングしました。アートワークはアーティストの大八木夏生さん、デザインを堤拓也さんにご担当いただきました。

VOICE

田島吉廣さん
六原自治連合会



六原学区は、18年ぶりに時代祭に参加しました。地域の皆さんへお知らせするためのポスターとチラシを作成することと、記念の写真と映像の撮影をHAPSさんを通じてお願いしました。ポスターとチラシは我々の思い通りの仕上がりで、映像についてはドキュメンタリー映画でも観ている思いがしました。本当に制作に関わって頂いた皆さん、そしてHAPSさんありがとうございました。

VOICE

片山達貴さん
映像作家



六原学区の皆さんと共に、ときに楽しく会話をしながら制作を進めることができました。次第に引き締まっていく参列者の方々の表情の移り変わり、時代祭当日の華やかさはもちろんですが、一人ひとりの変化が物凄く面白くて夢中で追いかけてきました。自分が考える映像メディアの面白みを、少しでも皆さんに伝えたい、という気持ちで制作をしました。



HAPSの新拠点が オープンします!

HAPSがこれまでもアートプロジェクトを実施してきた京都駅東南部エリアから、空き家の相談が寄せられました。そこで京都市の「空き家活用・流通支援等補助金」を活用し、町家の意匠を残しつつ快適な設備へ改装。HAPSが維持管理する、新たな拠点として整備しました。今後は様々な人々が集う場所、共生社会事業(→p.25)の新たなスペース、アーティストの制作・活動の拠点などを兼ねる複合的な施設として、2020年4月から本格稼働を目指します。



HAPS
TOPIC 2019

02

VOICE



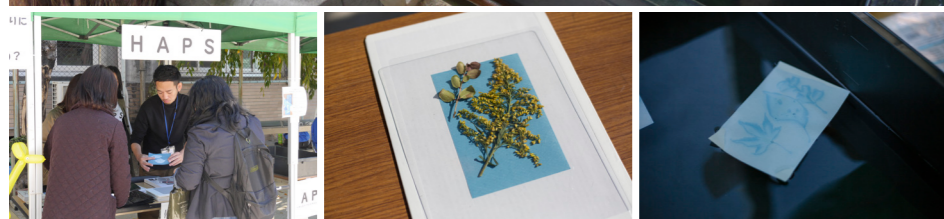
三島峯治さん・三島幸子さん
家主

元は酒屋の倉庫として使っていましたが、店をやめてから空き家になり、なるべく負担のない形での建て直しを検討していた時に、東九条地域が文化芸術に重点をおいて、若い方を育成していく地域になることを知りました。それから京都市都市計画局まち再生・創造推進室に相談したところ、HAPSを紹介してもらいました。そこから話し合いを重ねて、生まれ育った思い出のある家を活かしてもらえるプランを提案してもらい、お任せしようと思いました。HAPSの地域活動の拠点として、またアーティストの使う場所として、活用して頂けることを喜ばしく思っています。ここにきたアーティストが大きくなった時に、昔はここで勉強したんや、ここで作ったんや、と言って頂ける場所になったら良いですね。

地域の中のHAPS、 相談からの展開を紹介します。

今年もHAPSは様々な地域主催のイベントやお祭りなどに協力・参加しました。

- 5月 糸苅神社 神幸祭 京都糸苅神社～東山区各所にて
- 10月 ハロウィンパーティー 新道児童館にて
- 10月 新道学区民体育の集い 元新道小学校校庭にて
- 11月 六原フェスタ 東山開晴館にて



「永久に茂らん新道の集い」にも参加!

東山区まちづくり支援事業 新道小学校創立150周年記念「永久に茂らん新道の集い」『青写真で残す、私たちの記憶』 | 開催日:2019年11月10日(日) | 会場:元新道小学校校庭 HAPSブース | アーティスト:堀井ヒロツグ (Homesick Studio) | 主催:新道自治連合会・各種団体

11月に、HAPSがスタジオとして活用している元新道小学校の創立150周年の記念イベント「永久に茂らん新道の集い」が開催されました。子どもがアートに親しめるブースを出展してほしいとの地域からの要望を受け、HAPSスタジオ利用アーティストの堀井ヒロツグ (Homesick Studio) さんによるワークショップ『青写真で残す、私たちの記憶』を実施しました。

HAPS
TOPIC 2019

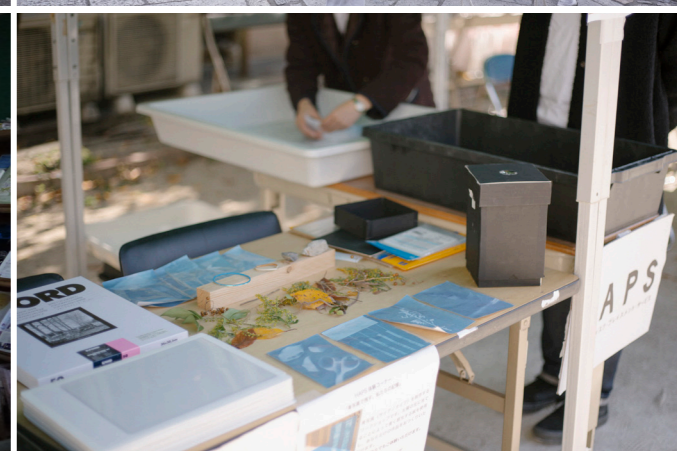
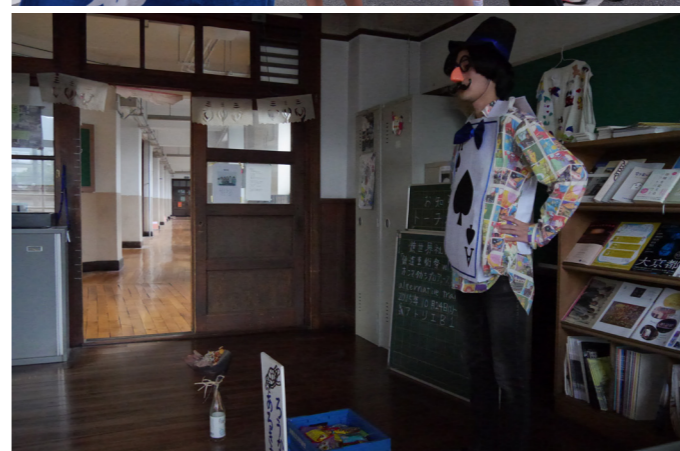
03

VOICE

堀井ヒロツグさん
写真家



今回の青写真ワークショップでは、小学生未満のお子様からご年配の方まで、新道に関わる幅広い方が参加してくださいました。太陽を光源とした光の明暗が青色の濃淡として印画紙に写されるといふシンプルな写真技法ですが、それゆえに写真が発明された前史の驚きや喜びを鮮やかに体験して頂けたのではないのでしょうか。また、ご年配の方からは「日光写真」として小さな頃から親しまれていたというお話を伺うことが出来たのが印象的で、個人の記憶が淡く発光することを通じて地域のリアリティが蘇るようにも感じられ、とても有意義な時間となりました。



主軸であるアーティストをつなぐサポートも充実。

ここでは、アートに直接携わる方からの相談を受けて、HAPSがこれまでに培ったネットワークを活かして実現させた今年度の事例を紹介します。市外の方が京都で活動する際の準備や、京都で着実な活動を積み重ねている方とアーティストをつなぐサポートを多く行いました。

京都でこんなことがしたい、考えたプランが実現できるのか迷っている、京都で学びたいことがあるアーティストの方。ご自身の活動にアートを取り入れたい、アーティストの力を借りたい、アーティストとリサーチしたいことがある方。ぜひHAPSに一度、お気軽にご相談ください。日本全国、海外からでも、京都市での活動に関わるご相談を歓迎いたします。

事例1

アートプログラムの講師をマッチング。

マッチング時期:2019年11月 | 主催:特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会 | アーティスト:太田恵以

アートや音楽を通して若者の自立と社会参加を応援する、「特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会」から、アートプログラムに参加してもらえるアーティストを紹介してほしいとの相談を受けました。HAPSからは、アメリカ在住時に自身の制作と並行してアートエデュケーターとして活動した経歴を持つアーティスト、太田恵以さんをご紹介。毎週のプログラムでの講師を現在も継続中です。



事例2

公演に協力。 多人数で滞在できる レジデンスを紹介。

ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム「KIPPU」オル太『超衆芸術 スタンドプレー』 | 開催日:2020年2月8日(土)~2月11日(火・祝) | 会場:ロームシアター京都ノースホール | 作・演出:オル太 | 出演:オル太/新井麻弓/タカハシ 'タカカーン' セイジ/玉木晶子/山本悠 | 共催:京都市/ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)/京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会) | 協力:一般社団法人HAPS/常松庵/東京藝術大学大学院映像研究科、RAM Association | 制作:上村絵梨子

表現活動集団「オル太」の、ロームシアター京都での公演に協力。稽古や制作のために約5週間にわたって多人数で滞在できるレジデンスを紹介してほしいとの相談を受け、東山区の「常松庵」を紹介しました。



事例3

リサーチと制作のための レジデンスと渡航に協力。

展覧会「半透明のひかり」 | 開催日:2020年3月11日(水)~3月22日(日) ※京都展 | 会場: Art Spot Korin | アーティスト:DOKI MIZUHO, Jess Lau Ching-wa | ゲストアーティスト: なかやまほなみ | 協力:一般社団法人HAPS / 香港藝術發展局

アーティストの DOKI MIZUHO さんから、香港のアーティスト Jess Lau さんと共同で鴨川を中心としたリサーチと制作の相談を受け、短期滞在のレジデンス施設を紹介。Jess さんの渡航にも協力しました。作品は京都のギャラリーで展示されました。



事例4

ゼミ、勉強会の 講師をマッチング。

京都造形芸術大学大学院グローバル・ゼミ フィールドワーク | 開催日:2019年12月14日(土) | 会場: studio seedbox | 主催:京都造形芸術大学大学院グローバル・ゼミ | 登壇者:宇山世理子(社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会地域福祉センター「希望の家」職員)/安田直人(パラムの会)

アーティストの田中功起さんから、京都造形芸術大学大学院グローバル・ゼミのフィールドワークの一環として、東九条地域の歴史に詳しい人を紹介してほしいとのご相談をいただきました。田中さんの作品《抽象・家族》(2019)に出演した安田直人さんに加え、HAPSのコーディネートにより宇山世理子さんを講師に招いた勉強会が「studio seedbox」にて実現しました。



HAPSとは



アーティストと
アーティストを支える人のための、
よろず相談所です。

設立の経緯

京都市は、「京都文化芸術都市創生条例」に基づき、具体的な指針として策定する「京都文化芸術都市創生計画」（2007年3月）において、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業を計画しました。2009年4月から調査を開始し、事業のプランニングに着手。2011年9月、上記事業を主として実施する組織として、各分野の専門家で構成する「東山 アーティスト・プレイスメント・サービス実行委員会」が設立されました。HAPSは、その略称です（読み：ハップス）。2019年4月、HAPS事務局は一般社団法人HAPSとなりました。

京都のアーティストの場づくり支援

この困難な時代に生きる芸術家たちを支えること。それは、「美術」という一つのジャンルを守るのではなく、私たちの社会全体の豊かさを維持し、さらに新しい可能性を開いていくことにつながります。多くの芸術家がそこに住まい、生活している街。あるいは逆に、そこで暮らしている人間が芸術家になりうる、芸術家でありうる街。切実な表現、独創的な作品、かけがえのない営為が多くの人に見られ、共有されている街。HAPSは、個人の生き方と社会のあり方を組み替え、文化芸術が最大限のポテンシャルを発揮できる環境を京都市に作り出すことを、その目標としています。

HAPSのミッション

芸術家支援

京都在住の芸術家たちの
居住・制作・発表を包括的に支援する

地域創造

芸術家たちの創造性を
京都市の活力へとつなぐ

ネットワーク形成

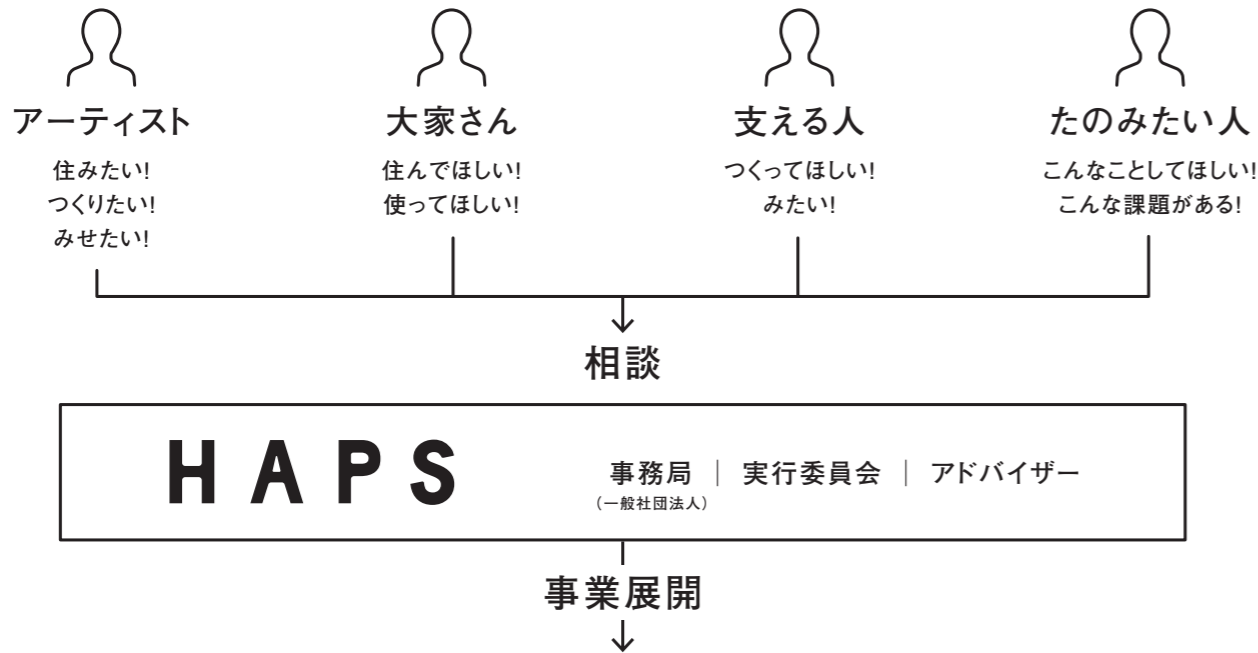
国内外の芸術機関と
多様な協力体制を構築する

イノベーション活動

新たな芸術のあり方と、
新たな社会のあり方を共に探求する

HAPSの支援活動とは？

HAPSの活動は、相談があって初めて成り立ちます。
相談をきっかけに、様々な支援活動を展開しています。



物件マッチング

京都市で活動するアーティストには空き物件を、大家さんには入居希望のアーティストをマッチングします。制作・居住環境を探すアーティストの希望と、借り手を探す大家さんからの物件情報を集約し、両者の間をつなぎます。

キュレーター招聘

京都を拠点に制作活動を行う若手アーティストを紹介するために、国内外より第一線で活躍するキュレーターを招聘し、スタジオビジットやトークイベントなどのプログラムを開催します。この出会いを機に作家が企画展に呼ばれたり、国際的なアートシーンについて知るきっかけにもなります。

HAPSオフィス・スタジオ

HAPSオフィスには、小さな展示空間、イベントスペース、中庭などがあり、事務所であると同時に、アーティストと彼らを支える人の交流を生む場所として、様々なプログラムを実施しています。また、2011年に閉校した元新道小学校の6教室をアーティストのスタジオとして活用しています。

地域との取り組み

京都市内の行政や地域団体等の要請で、地域の行事や活性化のためにアーティストによるワークショップなどをコーディネートします。作家の仕事コーディネートや発表の場づくりにもつながります。例えば、右京区の京北地区での地域を走るコミュニティバスのラッピングや、まち歩きツアーなど、活動の幅はさまざまです。

芸術家×仕事 コーディネート事業

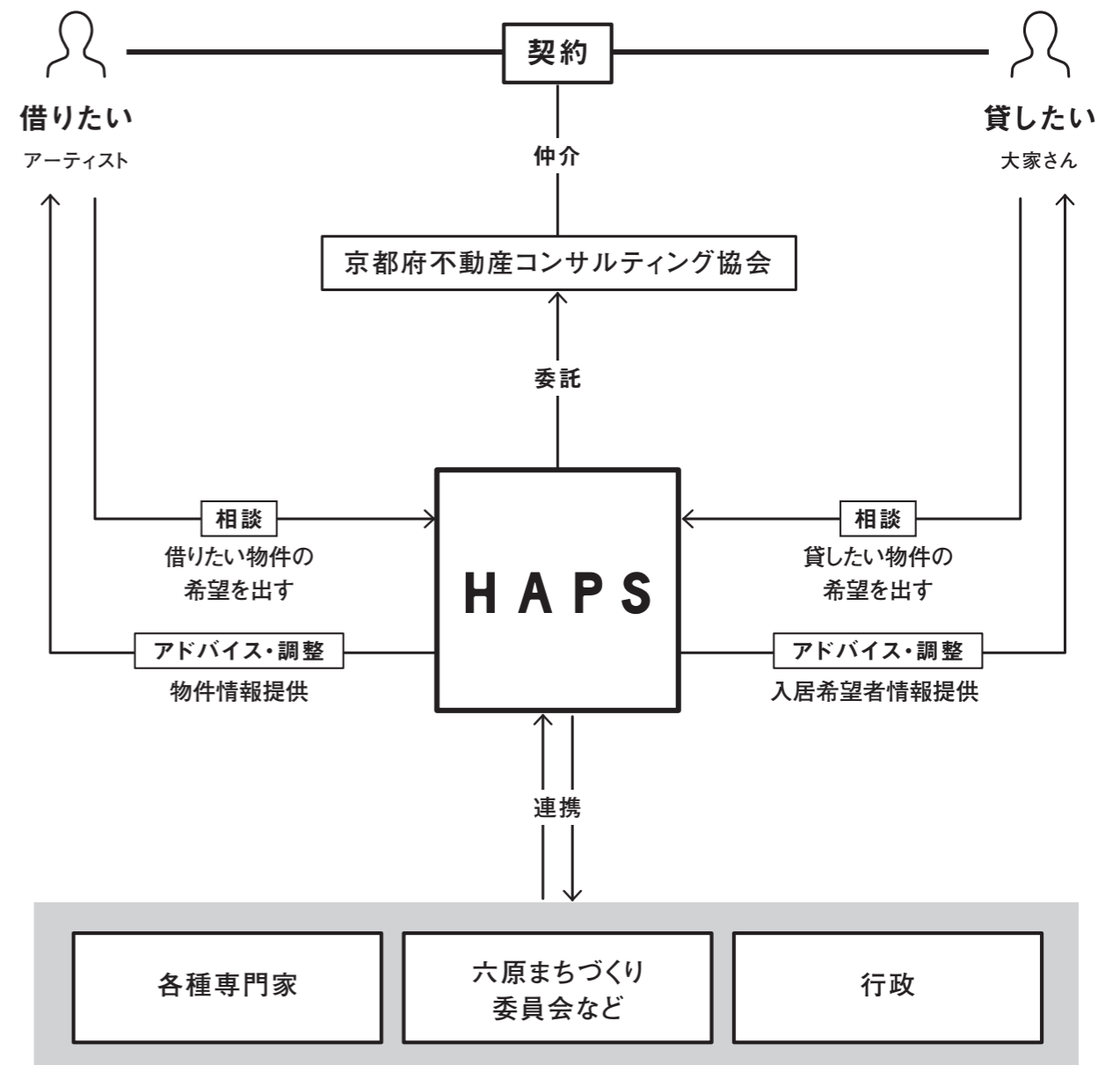
アーティストだからこそ、できることがある。これまでに培ってきた芸術家や専門家のネットワークを活かし、芸術家に仕事を依頼したい方とアーティストのための情報提供を行っています。アーティストへの「仕事」の依頼という支援が、新たな創造に結びつくことを期待しています。

アートと共生社会に 関する取り組み

多様な背景をもつ人々が共に生きやすい社会の実現を目指し、アートに備わる特性を活かした様々な取り組みを実施しています。先進事例の調査、普及活動を行うとともに、モデル事業での実践、相談事業などを通じ、アートが社会の状況へどうアプローチし、力を発揮できるのかを考えています。また、それらに関わる人材の育成もめざしています。

物件マッチング

京都市全域を対象に、大家さんから活用可能な物件の情報を受け付け、アトリエや住まいを探しているアーティストに物件を紹介しています。アーティストと大家さんの双方の要望に合致するようにマッチングを行っています。社会的に空き家問題への関心が高まっている中、HAPSでは、アーティストにしかできない方法での問題解決を提案しています。また、HAPSが拠点を置く東山区六原学区では、地元有志と各専門家が連携し、空き家や防災等の問題に取り組む「六原まちづくり委員会」に参加しています。



相談いろいろ

共同スタジオのメンバー募集情報を掲載してほしい○欧米・アジアなど海外の歴史ある空間で展示がしたい○絵を描いているが仕事の依頼が少ないので相談にのってほしい○作品募集の公募情報を掲載してほしい○告知物のためのイラストレーションとロゴ制作をお願いしたい○アーティストの海外出張支援事業の選定委員会に参加してほしい○元製材所の物件をDIYでギャラリーに改装している。興味を持ちそうなアーティストを紹介してほしい○京都市内のギャラリーを探している○自分が住んでいる路地を芸術家村にしたい。方向性についてアドバイスをほしい○アーティスト・イン・レジデンスの募集情報を掲載してほしい○**はじめて確定申告をしようと思っているので相談にのってほしい**○アートセンターの特集コンテンツで、HAPSスタッフに鼎談に協力してもらいたい○在韓の日本人に関して行っているリサーチプロジェクトについて相談したい○**再来日してリサーチを継続するための助成金について相談したい**○イベントのガイドブック・ポスターの制作をお願いしたい○生活感のある・あった会場を探している○**地域の人たちが動画で地域の風景を記録できるように、スマホでの撮影と編集についてレクチャーしてもらえらる専門家を紹介してほ**

しい○作品制作のために学校のプールなどを借りて撮影したい○京都で行う公演情報を掲載してほしい○海外のレジデンスをどのように探したら良いか相談したい○HAPSの仕組みや取り組みについて、ヒアリングさせてほしい○スタッフを募集するので適した人がいれば紹介してほしい○**シェアスタジオの賃貸契約内容について相談したい**○国際交流展を開催する会場を探している○ドイツに滞在したいので、現地のレジデンスなどの制度について相談したい○アートプロジェクトへの参加者、アーティストの募集情報を掲載してほしい○**展覧会・イベントの情報を告知してほしい**○制作協力をお願いしたい○京都市内でのグループ展の企画・運営を考えており、キュレーターなどについて相談したい○**自宅に作品を飾りたいので、コミッションワークをしてくれる若手アーティストを探している**○作品にあった公演会場を探している○HAPS PRESSの記事の内容を授業で引用させてほしい○映像を使ったインスタレーション作品の機材について相談にのってほしい○京都で日本伝統文化のリサーチをしたい○滞在制作している場所でのオープンスタジオを告知してほしい○海外作家の映像作品の上映とトークイベントを開催する場所を探している○**写真展を企画している**

が、ギャラリーではない場所で展示したい○ウェブサイト、ポートフォリオの構成について相談したい○トークイベントをHAPSで開催させてほしい○京都でのレジデンス活動について相談したい○**大学卒業後も、学校のような色々な人と交流を持ちながら制作出来る環境を探している**○海外で行う文化交流イベントに参加してもらえるアーティストについて相談したい○イベントに参加してくれるアーティストを紹介してほしい○京都市立芸術大学移転に向けて地域へのアンケート実施に協力してほしい○アートフェア開催のための設営に協力してほしい○スペースの利用者募集の告知に協力してほしい○**助成金の情報が知りたい**○東九条のエリアマップのイラストを使用したいのでアーティストを紹介してほしい○イギリスを拠点に活動しているが、来月に京都市内で個展を開くので展覧会の広報に協力してほしい○京都のお寺でパフォーマンス・イベントを行うので、情報を掲載してほしい○HAPSのアーティスト支援事業について知りたい○**スタッフ・ボランティア募集の告知協力をしてほしい**○アートプロジェクト実施にあたり、制作やイベント保険への加入について相談したい○海外でのリ

サーチを基に、複数のアイデンティティの交錯やディアスポラについてなど共有できる会を行いたい○**絵画材料の研究会をするので相談したい**○解体予定の物件を使ったインスタレーション制作・発表を考えており、物件について相談したい○全国のサイトスペシフィックなアートプロジェクトについての展示をするので、広報物を提供してほしい○**京都市内で滞在制作できる場所を探している**○海外で行うアーティストイン・レジデンスに参加するアーティストを探している○HAPSのサイトに記載されている芸術判例集などの記事について、執筆者を紹介してほしい○海外のレジデンスで取り組んでいる作品について京都で個展形式で発表を考えており、会場や助成金について相談したい○トークイベントに登壇してほしい○ALLNIGHT HAPSについて作家としても興味を持っているので、どのように企画しているのか教えてほしい○アーティスト支援のためのレジデンスを小規模で始めたいので京都市内で物件を探している○**以前HAPSで展示をしていたアーティストとコンタクトを取りたい**○ニューヨークでの公演に協力してもらえる現地機関を紹介してほしい○**ツラッティ千本の展示に協力してほしい**

キュレーター招聘

国内外のキュレーターと京都のアーティストをつなぐ。

近年、展覧会などの企画を行うキュレーターの存在が注目を集めています。しかし、多くのアーティストにとって、キュレーターと直接対話し、知見を交わす機会は限られています。HAPSでは、そのような機会を定期的に提供。国内外のキュレーターが京都のアーティストを知り、京都のアーティストが企画者の求めるものを知る。そこから具体的な展覧会やイベントに発展した事例も生まれています。

2019年度招聘キュレーター

神谷幸江

ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク、ギャラリー・ディレクター

デビッド・テ

キュレーター、シンガポール国立大学准教授



VOICE

神谷幸江さん

ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク、ギャラリー・ディレクター



アーティストやアートをめぐる活動は、街の隠れた開拓者としての先見の明がある。広いが寒くて古い、街中だが狭い、そんなネガティブに聞こえる物件も刺激的な創作の場、発信の場になる例を、様々な地元のネットワークに長けたHAPSを水先案内人にくつも訪れることができた。創作は一人の孤独な作業であることがほとんど。しかし京都では旧家、旧校ら土地の記憶を携えた味わい深いスペースを現代の作り手たちが実に楽しく活用し、共同スタジオ、プロジェクトのプラットフォームに使っている例に多く出会えた。個の制作に集中する場と共有し機会とつながりを産む場、2つの展開が1つの場所に重なりあう。一場所二役、一挙兩得、一石二鳥？京都でのスタジオビジットはことに心踊る機会だった。

OUR SCHOOL

みんなで学ぶ、教える、共有する。

HAPSでは、あらゆる人に開かれた学校「OUR SCHOOL」を開校しています。場所は、HAPS オフィスの1階。誰もが生徒にも先生にもなれ、知識や経験、技術を共有していく開放された学校を目指しています。「生きるために表現すること」と「生きることが表現であること」。このふたつを自由に往復することが私たちの生存につながります。



事例1 「ヒューマンライツ&リブ博物館—アートスケープ資料が語るハストリーズ」をふりかえるキュレーターズ・トーク
日時:2019年9月19日(木)19:00~21:00
ゲスト:石谷治寛(京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員)
主催:around the SEA

2019年6月14日~7月12日に開催された展覧会「ヒューマンライツ&リブ博物館—アートスケープ資料が語るハストリーズ」(京都精華大学ギャラリーフロール)の展示ディレクションを担当された石谷治寛氏が、〈仮設的な「博物館」〉、〈ハストリーズ〉といった同展コンセプトに込められた意図について、また、アーカイブズの編纂という行為について、展示をふりかえりながら語りました。



事例2 法律家と一緒に考える、最近の芸術関連事件・表現規制
日時:2019年6月19日(水)18:30~20:30
登壇者:藤森純(弁護士/東京スプラウト法律事務所代表/Arts and Law代表理事・共同代表)・作田知樹(Arts and Lawファウンダー/作田行政書士事務所 Arts and Considerations代表/京都精華大学非常勤講師)

HAPS PRESSでの「芸術判例集 美術表現に関わる国内裁判例25選」、「美術表現に関わる近時の国内規制事例10選(1994-2013)」から5年が経過したのを受け、Arts and Lawから2名(共同代表理事・藤森純弁護士/規制事例集の執筆者・ファウンダーの作田知樹行政書士)が登壇し、新たな裁判例・表現規制事例について法的な分析を交えてのレクチャーを行いました。

HAPS Web

http://haps-kyoto.com/

相談受付のほか、情報コンテンツも提供。

アーティストと支える人からの、物件や仕事の相談、その他よろず相談をウェブサイトのフォームから受け付けています。誰でも気軽にアクセスできるウェブサイトが、直面している問題を解決する第一歩となります。他にも、京都市内の幅広いジャンルの展覧会・イベント情報をバイリンガルで提供する「ART Picks」、国内外の情報を集約した「公募・助成・レジデンス」、貸しギャラリーや空きスタジオ情報など、アートに関わる、アートに興味があるあらゆる人のための情報を提供しています。

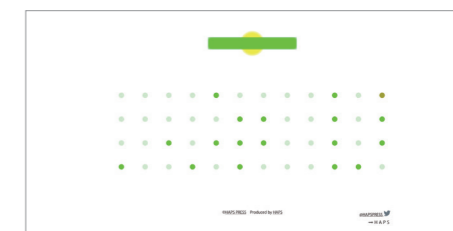


HAPS PRESS

http://haps-kyoto.com/haps-press/

芸術と社会の実験的に考察していくためのウェブマガジン。

HAPSの活動の前提となる条件や事柄を再考し、それをHAPSの活動に還元する役割を持っています。リサーチ、インタビュー、エッセイ、レビューなどが、アーティストや研究者、専門家、市民など様々な立場の人々によって構成されています。「アーティストとは?」、「社会にとってのアートとは?」、「アートをサポートするとは?」という命題が複数の切り口から検証され、それが公開されています。このサイトは、HAPSの活動が常に反省と対話を必要としていることの表れであり、同時に社会一般に広く「アート」をめぐる状況と問題が共有されることを目指しています。



HAPS PRESSでは展覧会レビューを募集しています。
http://haps-kyoto.com/press_writer/

専門的である必要はなく、独自の観点で展覧会のレビューを書いていただける方を広く求めています。まずは、京都市内で見れた展覧会のレビューを800字で書いてHAPSまでお送りください。

レビュー掲載箇所: http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/

主催事業

ALLNIGHT HAPS

2名の企画者による、オフィスでの夜通しの展覧会。

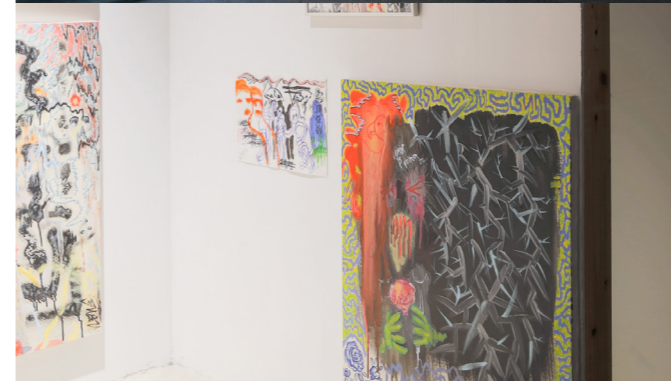
2013年より若手アーティストに発表の機会を提供しつつ、若手企画者を養成することを目的として、オフィスの玄関を小さな展示空間として、夜6時から翌朝9時半までの夜間に活用しています。毎年2名の方にキュレーションを依頼し、年に2つの企画で開催する展覧会です。2019年度は前期にキュレーターの藤本悠里子さん、後期にはアーティストの黒木結さんによる企画展を開催しました。

*これまでのALLNIGHT HAPSのアーカイブはこちらでご覧いただけます。 <http://haps-kyoto.com/allnight-haps-archive/>

前期「PORTABILITY」 企画:藤本悠里子 企画協力:新井優希



後期「Kangaru」 企画:黒木結



2019前期 企画:藤本悠里子 企画協力:新井優希

「PORTABILITY」

3名の作家と2名の企画者が、それぞれの拠点である鳥取・沖縄・秋田・京都へ移動を重ねて言葉を交わしながら、各自がその場所での暮らしの中から掬い取った同時代の営みを展示しました。同時に作家/企画者による記録冊子を制作し、来場者がその記録を持ち帰ることができる展示となりました。

#1 長門あゆみ

「harboring 鯨を抱く-No.2」2019年6月1日(土)～7月8日(月)
アーティストトーク(長門あゆみ×藤本悠里子×新井優希) 2019年6月15日(土)

#2 西永怜央菜

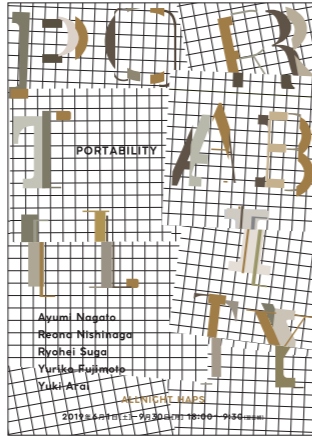
「ハロウィーンの子供達」夜のアフェン」2019年7月13日(土)～8月19日(月)
アーティストトーク(西永怜央菜×藤本悠里子) 2019年7月13日(土)

#3 須賀亮平

「風うく街、そよぐ街」2019年8月24日(土)～9月30日(月)
アーティストトーク(須賀亮平×藤本悠里子) 2019年8月24日(土)

クロージングイベント

「Life is spark joy!」2019年9月28日(土)
ママ:新井優希



VOICE

藤本悠里子さん

キュレーター



鳥取、沖縄、秋田、京都を拠点に活動する同世代の作家/企画者による展覧会。3名の作家による作品展示と、互いの活動拠点を訪問しあった際の記録物の配布を行いました。会期中、香港では抗議行動が続き、京都アニメーションでの放火事件が起こり、「表現の自由展・その後」を巡る様々な報道や意見が飛び交い、会期後には作家たちと共に訪れた首里城が焼け落ちました。この展覧会は、同時代の明るい出来事や暗い出来事、様々なかたちの営みとどのように向き合い、どのような手つきで自身の活動に結んでいくか、あるいは距離を取るのかを問うために企画したものでしたが、意図を超えて深く強く、問いを突きつけられる機会となりました。

2019後期 企画:黒木結

「Kangaru」

「カンガルー」の逸話から着想された本展では、企画者の黒木が自身を含む4名の作家に、「同じ場所において違う方向を向いている人、または、違う場所において同じ方向を向いている人をひとり選んで、制作・展示を行う」というルールを設定。各作家が自ら選んだパートナーとの共同制作を実施しました。

#1 黒木結・中熊友之

「展示空間 Kangaru」2019年10月20日(日)～11月22日(金)
※HAPS内に設置された展示空間において、以下の展示を開催。
石村行「いしむらあゆむ展」企画:中熊友之 2019年10月29日(火)～11月1日(金) / illbull「After the morning」2019年11月2日(土)～8日(金) / 吾郷佳奈「よるのみちすがら」11月9日(土)～14日(木) / RumiOosawa 2019年11月16日(土)～22日(金)

「よき隣人のことを考えながら鯛をつつく会」2019年11月2日(土)
アーティスト・トーク(黒木結・中熊友之) 2019年11月9日(土)

#2 大西晃生・林美月

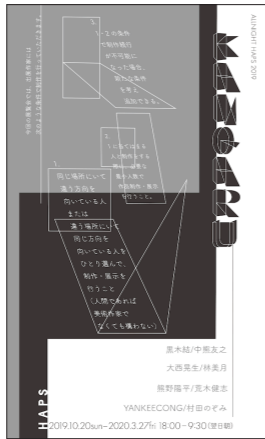
「Hedgehog's dilemma」2019年12月1日(日)～2020年1月3日(金)
ギャラリートーク「作品を鑑賞するプロセス」2019年12月21日(土)

#3 熊野陽平・荒木健志

「忌憚のない会話 ver.KA」2020年1月12日(日)～2月14日(金)
忌憚のない会話 ver.KA ゲーム会 2020年2月1日(土) / クロージング上映会「忌憚のない会話 ver.KA 制作のための会話」2020年2月14日(金)

#4 YANKEECONG・村田のぞみ

「Yamabiko」2020年3月1日(日)～3月27日(金)
アーティスト・トーク(YANKEECONG・村田のぞみ・黒木結) 2020年3月19日(木)



VOICE

黒木結さん

アーティスト



HAPSは、芸術または芸術家と地域がどう共生できるのかを実践している人々の集まりであると思っていたので、同じことを展覧会の中で実践しようと考えました。違う大学で学んだ人、普段活動している場所が異なる人、作品を作ったことがない人との制作・展示は、普段とは異なる方法や認識を進めていくことが必要でした。そういった実践は作家だけの経験で、鑑賞者からは誰が作ったのかもはっきりと分からない作品と展示が突然現れるだけ。日々、HAPSや誰かが繰り返している「実践」を展覧会という形で可視化しただけに過ぎませんが、HAPSやそれぞれの日々の「実践」に目を凝らす機会になっていれば、これほどうれしいことはありません。

主催事業

芸術家×仕事コーディネート事業

アーティストだからこそ、できることがある。

閉塞感や社会的な分断が私たちを取り巻いています。文化や芸術は、このような時にこそ、新しいヴィジョン、価値観、世界像を提供することが求められています。しかし、文化産業として高度にシステム化されている現行のアートシステムでは、そのような根源的な芸術の営みが生まれづらい状況になっています。

そこで私たちはアーティストに期待をかける新しい方法論を提案します。それは、新しいパトロンが新しいアーティストを生み出すというものです。

レオナルド・ダ・ヴィンチは単なる画家ではなく、建築や科学を含めた総合的なアーティストであり、それを支えていたのはパトロンたちでした。現行の美術館やギャラリーとは違う回路で、アーティストが「作品」を成す可能性を想定してください。HAPSはそれを支援する方を募集いたします。

間違っほしくないのは、このプログラムはアーティストのクリエイティビティを部分的に利用することを目的としていません。装飾やデザイン、コンテンツの提供や集客のための視覚的要素の導入などは、アートの道具化でしかありません。そうではなく、クリエイションそのものの必然性を掘り起こしたいのです。閉塞した状況を打破すること、全く新しいヴィジョンを提供すること、無根拠な創造性を擁護すること、自由とは何かを具体的に示すこと。こういった根本的なことを芸術家に求めたいのです。そういったニーズが存することが可視化すれば、それに応えうる芸術家も生まれてくることでしょう。

以上が本プログラムの主旨になります。主旨自体はいささか理想主義的ですが、運用に際しては実践的なシステムを準備しています。

ウェブサイト

http://haps-kyoto.com/work/

コンセプトとともにアーティストと支援のあり方を巡る考察の場として、様々な方へのインタビューやエッセイを掲載。随時公開していきます。

2019年度に公開したコンテンツ

「公益財団法人セゾン文化財団理事長 片山正夫インタビュー」インタビュー・構成:大堀久美子
「アーティスト・プレイズメント・グループ(APG):60年代後半から70年代ロンドンのソーシャル・プラクティス」寄稿:小林瑠音(神戸大学国際文化学術研究推進センター学術研究員)

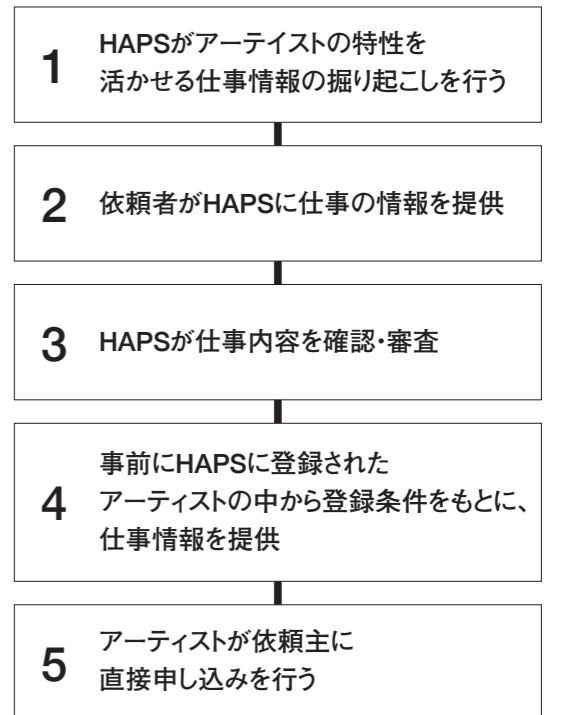
仕事を依頼したい方

ウェブページの「仕事を依頼したい方」のバナーから「仕事情報登録フォーム」に進み、依頼したい内容、契約形態・報酬などを具体的に登録してください。内容をHAPSで審査した上でアーティストに仕事情報を提供します。

依頼を受けたいアーティスト

ウェブページの「依頼を受けたいアーティスト」のバナーから「アーティスト情報登録フォーム」に進み、自身の活動のジャンル、プロフィール、作品の概要や活動歴を登録してください。HAPSが仕事の情報提供を受け、該当する情報をお知らせします。実際に仕事を受ける際には、依頼者に直接申込をしていただきます。

情報提供の流れ



※2019年度の具体的な成果については、p2-4を参照ください。

文化芸術による共生社会実現に向けた 基盤づくり事業

アートの力で社会課題に向き合う。

HAPSは、2017年度に「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」、2018年度に「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を京都市から受託し、実施してきました。これらは、様々な社会的状況にある人々とともに、アートの力を通じて、社会のよりよいあり方を探り、その仕組みづくりを目指すものです。2019年度は、これまでの受託事業からHAPSの主催事業へと移行し、「文化芸術による共生社会実現に向けた

基盤づくり事業」と題して、これまで実施してきた調査、普及啓発講座の事業を引き続き行うとともに、アートと共生社会に関する相談事業、コーディネート人材育成の実施手法の検討を行い、その仕組みを整えました。モデル事業においては、京都駅に隣接する東九条地域や崇仁地区を中心としたプロジェクトの展開や、リサーチを継続中です。

連続講座「文化芸術による共生社会実現のための アーツマネジメント入門」

アートを通じて社会課題に向き合う実践者や研究者を講師に、具体的な実践のプロセスを学び、社会のあり方や倫理について考える連続講座を昨年に続いて実施しました。また今年度はアーツ前橋『表現の生態系』展の事例も紹介。社会への応答としての芸術実践のあり方や、その実践プロセスに生じる人権や倫理の問題について考える講座は、昨年度に引き続いて京都精華大学と連携して実施しました。



第1回講座：「眼差しのパイオニアをつくる基礎と未来」
日時：2019年7月17日(水) 19:00～21:00
講師：奥山理子(みずのき美術館キュレーター)

第2回講座：概論＋トーク「芸術実践と人権ーマイノリティ、公平性、合意について」
日時：2019年7月27日(土) 13:30～16:15
講師：小泉明郎(美術家)／遠藤水城(キュレーター)／あかたちかこ(思春期アドバイザー・児童自立支援施設専門講師)／山田創平(京都精華大学人文学部准教授)

第3回講座：講座＋トーク「ローカリティと芸術実践 アーツ前橋『表現の生態系』展の事例より」
日時：2019年8月31日(土) 13:30～16:00
講師：住友文彦(アーツ前橋館長、東京藝術大学大学院准教授)／今井朋(アーツ前橋学芸員)／石倉敏明(人類学者・秋田公立美術大学准教授)／山田創平(京都精華大学人文学部准教授)

第4回講座：まともがゆれるー常識をやめる「スウィング」の実験
日時：2019年10月31日(木) 19:00～21:00
講師：木ノ戸昌幸(NPO法人スウィング理事長)

第5回講座：日常使いの現代美術
日時：2019年12月13日(金) 19:00～21:00
講師：滝沢達史(美術家)

第6回講座：芸術と労働
日時：2020年1月11日(土) 13:30～16:30
講師：伊藤まゆみ(京都精華大学 全学研究機構 展示コミュニケーションセンター 特任講師)、三輪晃義(弁護士)、山本麻友美(京都芸術センター チーフ・プログラム・ディレクター)、吉澤弥生(共立女子大学文芸学部教授)、渡邊朋也(YC AMインターラボアーキビスト)

第7回講座：共有空間の獲得
日時：2020年2月13日(木) 19:00～21:00
講師：小山田徹(美術家、京都市立芸術大学 教授)



モデル事業「東九条こどもご近所映画祭」

HAPSは東九条地域で過去2年にわたり、様々なアーティストや地域の方々とともに、アートプロジェクトなどを企画・運営してきました。今年度はその一環として、アーツシード京都へ事業を委託し、希望の家児童館のこどもたちを対象とした映画作りのワークショップ・上映会を実施しました。

- 1. 映画をつくる**
こどもたちがチームになって、3時間で映画をつくりました。
日時：2019年8月5日(月) 10:00～14:00
撮影場所：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター／ THEATRE E9 KYOTO
- 2. 宣伝する**
つくった映画の予告編を「東九条夏まつり」で上映しました。
日時：2019年8月17日(土) 東九条夏まつり 17:00～20:00
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター
- 3. 上映会をひらく**
まるでアカデミー賞?映画祭のように、劇場の舞台にたってみんなで上映会を開催しました。
日時：2019年8月23日(金) 14:30 / 15:30
会場：THEATRE E9 KYOTO



主催：東山 アーティスト・プレイメント・サービス(HAPS)
企画・制作：一般社団法人アーツシード京都
助成：損保ジャパン日本興亜「SOMPOアート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)
協力：NPO remo [記録と表現とメディアのための組織]／一般社団法人タチヨナ／希望の家児童館／京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

Social Work/Art Conference

「アートと共にわたしたちの豊かさを交換する」

東九条で相談事業を開始します。

少子高齢化の進展、貧困世帯の増大、ジェンダー格差、障害を持つ人々の社会参加など現代社会は様々な課題や困難を抱えています。社会を覆う閉塞感を感じ取ったアーティストや彼ら／彼女らを支える実務家たちは現場に向かい、美術や演劇、音楽などの表現を通して関わった人や場の可能性を引き出してきました。それは同時に、社会とアートの関係性を見直すことにつながり、アート領域の拡張を予感させます。これまでHAPSは、京都市の計画に基づき、「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」を通して、アートをきっかけに様々な立場の人が関わり合う共生社会を実現するための取り組みを実施してきました。しかし、こうしたアートの取り組みの認知度は低く、また知っていたとしても十分な経験の共有や分析を得ずに終わってしまうことも少なくありません。

そうした状況を踏まえ、HAPSでは従来の相談事業を拡張させた、「Social Work / Art Conference」を新たに始めます。私たちは、人間の尊厳や価値を擁護する「Social Work」の理念と、社会に対し刺激的に問いを投げかける「Art」とを結びつけることで、多様な意見を交換し合える「Conference」の場を作っていきます。相談に来られた方々がアートや表現の意味を深く感じ、社会へとよりひらかれた活動を行なっていくためのサポートを提供します。

そして人々、もの、場、組織、さらには思考に至るまで、広くその関わりを促すことで、それらの相互作用の質が高まり、より豊かな社会活動の実践と日常の営みが実現される未来を目指します。

VOICE

奥山理子

Social Work/Art Conference ディレクター



ソーシャルワーカーに囲まれて育った幼少期、10-20代の長期にわたる体調不良、福祉施設で得た回復、障害者の絵画活動から発展した地域型アートプロジェクトの実践など、私自身の数奇な経験が、今日のさまざまな社会的困難と向き合い共振することで、新たな専門性と社会資源が創造される未来を信じ、取り組んでいきたいと思っています。

相談の流れ

STEP1 相談の受付

問い合わせフォーム、メール、またはお電話でご相談をお寄せください。

STEP2 面会

相談内容に応じて、相談員と面会します
(※面会が必須ではありません)

STEP3 調整

関係各所と連携し、相談内容に応じた対応をします

STEP4 回答

相談内容に対する回答を行います(メールや電話の他、面会の場合もあります)

Q. 作品制作の一環で福祉施設をリサーチしたいのですが、どこへ問い合わせると良いですか？

A. アーティストの制作意図をお伺いし、福祉施設の種類や特徴を紹介し、必要に応じて連携機関をご紹介します。

Q. 「社会包摂・共生社会」と「アート」の関係性について学びたい。

A. 国内外の先駆的な取り組みや参考文献等をご紹介します。

Q. 利用者の方の日中活動の充実を図るため、アートを取り入れたいが何かから始めて良いかわかりません。

A. 「アート」とひと言で言っても、絵画や彫刻に限らずその表現やアプローチは多岐に渡るため、施設概要やこれまでの活動内容などを伺い、他の福祉施設での事例を紹介したり、講師(アーティストなど)を招く際の費用を含む対応方法についてアドバイスします。

Q. 文化施設内のアクセシビリティ、サービスを向上させたい。

A. 国内外の先行事例や実践者をご紹介します。

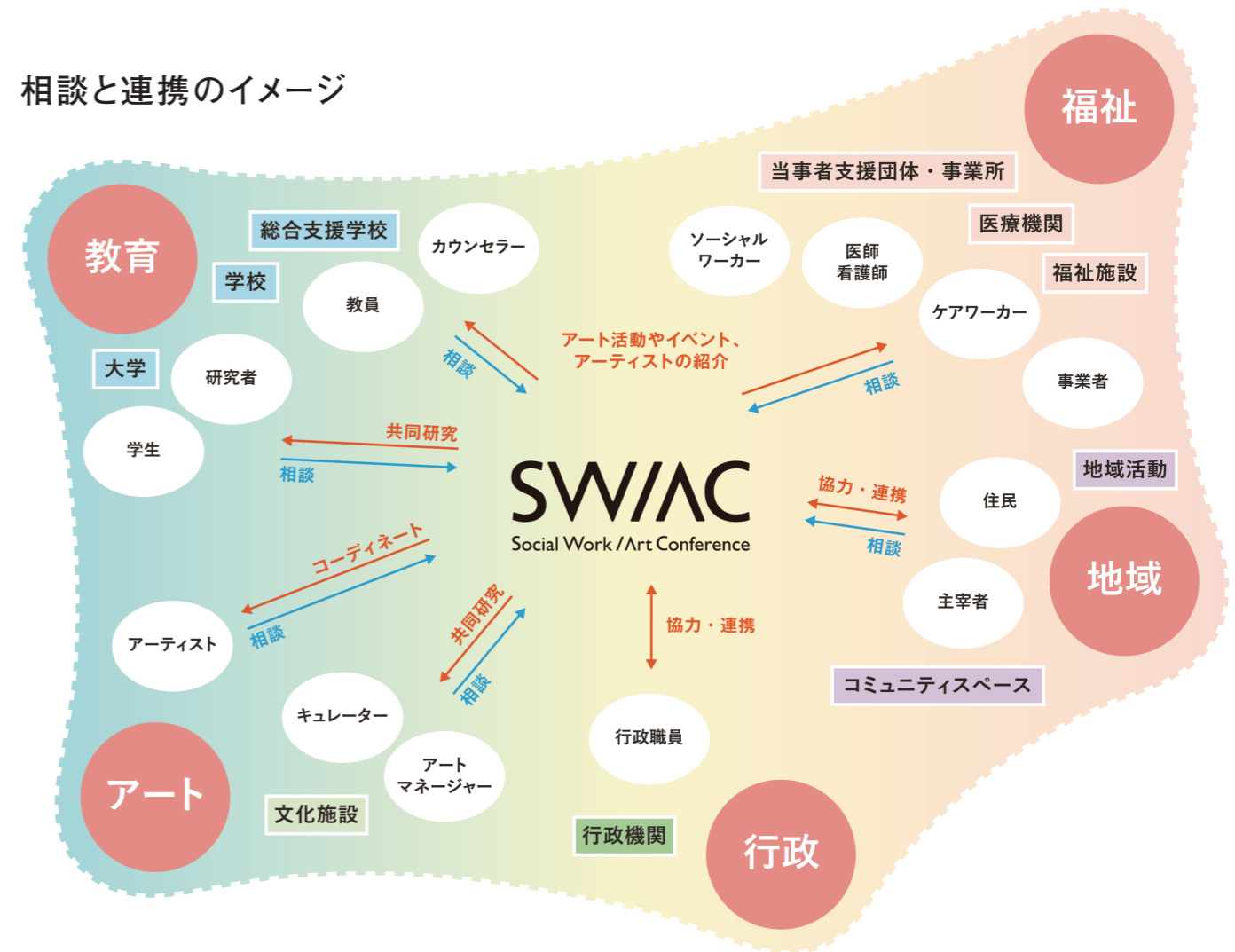
※相談は無料です。 ※京都市内に関する相談を優先いたします。

ロゴ

SWIAC

Social Work / Art Conference

相談と連携のイメージ



相談受付先

Social Work / Art Conference
Eメール: swac@haps-kyoto.com
URL: http://haps-kyoto.com/swac
TEL: 075-748-8575 FAX: 075-525-7522
住所: 〒601-8004
京都市南区東九条東山王町1 HAPS HOUSE

HAPSスタジオ

HAPSでは、元小学校の教室をアーティストのスタジオとして活用しています。

2012年12月より、京都を拠点に活動していく美術系アーティストのために、元小学校の教室を利用した制作スタジオを提供、現在6教室を運営しています。2011年に閉校した元新道小学校は、東側に名刹建仁寺、北側に京都糸苅神社、西側に京都五花街の一つ、宮川町と、京都の風情を醸し出す地域にあります。

Homesick Studio



集合写真左より守屋、前谷、堀井、成田

ホームシック スタジオ

写真を扱う4名のアーティスト、成田舞、堀井ヒロツグ、前谷開、守屋友樹による共同スタジオ。写真現像用の暗室やスタジオを共有し、それぞれ写真、映像、テキストなどの作品制作を行う。

【参加展】「きりとりめでると未然の墓標(あるいはねこ動画の時代) 2019-2020」(守屋) / 個展「Kapsel」(前谷) / 個展「見えない川」(堀井) / 「境界線を遊行する」(堀井、成田) など

川田知志

KAWATA Satoshi

1987年大阪府生まれ。2013年京都市芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。壁画技法をもとに、展覧会や委託制作を通して都市空間へ働きかける実践を行う。壁画を空間の帰属から切り離し自律させることから、壁画の新しい可能性も模索している。2019年1月、京都市芸術新人賞受賞。



【参加展】500m美術館 vol.32 第8回500m美術館賞 グランプリ展 / 日本ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランド芸術祭2019 in Japan 「セレブレーションー日本ポーランド現代美術展ー」 / 川田知志展「確かな晴れ。」など

マイケル・ウィッテル

Michael WHITTLE

1976年イギリス・ノーサンバーランド生まれ。ブラッドフォード大学で生物学を学んだのち、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修士在籍中、2010年文部科学省国費外国人留学生として訪日。2年間の研究生を経て、2015年京都市立芸術大学大学院博士課程修了。科学と美術の詩的な関係について書いた博士論文『Romantic Objectivism: Diagrammatic Thought in Contemporary Art』で梅原猛賞を受賞。図像学的なシンボルや科学記号を使った複雑で繊細なドローイングやインスタレーションを制作。



VOICE

アーティストがどこにいても直面している最大の課題の一つは、卒業後も制作を続けるための時間と場所を見つけること、そして芸術的なコミュニティを築き、プロとしての新たなつながりを作ることです。HAPSは京都のアーティストがこれらの問題を解決できるよう支援しており、この4年間HAPSスタジオプログラムに参加できたことをとても幸運に感じています。この期間に、私自身初の大きな展覧会を京都大学博物館で開催しましたが、HAPSスタジオでは必要に応じて週7日、複数の大きなドローイングを同時に制作することができました。また、HAPSはアーティストと東

山区の地域社会とのつながりを発展させる点でも重要です。おかげで、私は毎年糸苅神社が行うお祭りに二人の息子と一緒に参加し、地元の人々やその子供たちと持続的な友情を築くユニークな機会を得ることができました。HAPSの成功は、HAPSがどのように機能しているかを理解し、それぞれの都市で同様の取り組みを展開しようと、他国の自治体職員がしばしば訪れることにも示されています。HAPSがこれからも強みや影響力を増してさらに成功することを、そして京都を、世界の文化の中心のひとつでありつづけられるよう助けていくことを祈っています。

池田剛介

IKEDA Kosuke

1980年、福岡県生まれ。美術作家。2003年京都造形芸術大学情報デザイン学部卒業。2005年東京芸術大学大学院先端芸術表現専攻修了。平成17年度文化庁新進芸術家在外研修員としてポストン滞在。平成27年度ポーラ美術振興財団在外研修員として台北滞在。自然現象、生態系、エネルギーなどへの関心をめぐりながら制作活動を行う。2019年、自身がディレクターを務めるアートスペース「浄土複合」を京都市左京区にオープン。著書に『失われたモノを求めて不確かさの時代と芸術』(夕書房、2019)がある。



VOICE

知覚や認識への関心をベースに、絵画を軸としながら自然現象やエネルギーの問題を複合的に扱った制作活動を行っています。HAPSスタジオを利用して2016年

からの4年間、音楽室という大きな教室を贅沢に使わせていただき作品も大きく展開することができました。並行して2019年には、初となる単著『失われたモノを求

めて』を刊行し、また左京区浄土寺にある浄土複合というスペースにも始動することになりました。これらの活動は、HAPSの皆さんの協力なくしては成し得なかった

と思います。これからも京都を拠点に活動していく予定ですが、そのための足がかりを作らせてもらって感謝しています。長い間、大変お世話になりました。

協力事業

2019年度、HAPSが関わった企画の一部を紹介します。

事例1

Julia Ehrstrand Workshop メソッドクラス(単発ワークショップ)

海外のダンサーによるワークショップとパフォーマンスを行う場所を探しているとの相談を受け、面談を行い、会場の候補をご提案。東山区の東山いきいきセンターでの実施が実現しました。

開催日:2020年 2月1日(土)
会場:京都市東山いきいき市民活動センター/集会室
講師:Julia Ehrstrand (ジュリア・イーストランド)
コーディネーター:堀内恵
協力:一般社団法人HAPS



事例2

OPEN STUDIO×10

アーティスト運営のAlt Space POST (オルタナティブスペース・ポスト) が主催するオープンスタジオ、「OPEN STUDIO×10」が開催されました。広報に協力するとともに、HAPS事務局長の藏原が冊子とウェブサイトに寄稿しました。

期間:2019年9月6日(金)~9月9日(月)
 参加スタジオ:A.S.K. - Atelier Share Kyoto+Alt Space POST / るびじゅ工房 / GURA / Ink / kyoto ceramic art studio tochin / スタジオ USA / ウズイチ スタジオ / ウズマキスタジオ / VOSTOK / 山ノ外 スタジオ
 主催:Alt Space POST実行委員会 (A.S.K. - Atelier Share Kyoto内)
 協賛:ART OFFICE OZASA
 協力:一般社団法人HAPS
 後援:ICOM KYOTO 2019、公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー



事例3

ノガミツガーデン・タペストリー制作

2019年春、アーティスト・山本麻紀子さんの発案で、東九条のぞみの園に「ノガミツガーデン」が誕生しました。このお庭は、地域の方々から頂いたおすそわけ植物を中心に作庭されています。現在は、その作庭作業風景や頂いたおすそわけ植物を糸や布などで描く大きなタペストリーの制作中。HAPSは引き続き、広報などで協力しています。

開催日:2019年12月7日(土)・12月14日(土)・12月28日(土)
 場所:京都市地域・多文化交流ネットワークセンターほか
 主催:総合福祉施設 東九条のぞみの園
 広報協力:一般社団法人HAPS



事例4

東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす

東九条に1日限りの野外劇場が出現。大きな野外舞台では、現代美術家・森村泰昌さんの新作能や、狂言師・茂山千之丞さんを講師に迎えた市民狂言が行われました。東九条マダンによるプンムルノリ、屋台村や焚き火、大道芸も行われ、多くの人が集いました。HAPSは広報に協力。フライヤーには、2017年に「京都駅東南部エリアマップ」を手がけた上川敬洋さんによるイラストと、新たなマップが採用されました。

開催日:2019年11月16日(土)・17日(日)
 会場:メイン会場=北河原市営住宅跡地(通称マンモス団地)
 主催:京都市
 企画・制作:一般社団法人アーツシード京都
 協賛:京都信用金庫 / LE9 / 日本ペイントホールディングス / ROOMBLOOM
 協力:Collabo Office E9 / 株式会社八清 / 特定非営利活動法人あつまるつくる / 京都中小企業家同友会南支部 / THEATRE E9 KYOTO
 広報協力:一般社団法人HAPS
 コラボレーション:京都駅ビル



2019年度HAPS事業実績

相談受付数	物件マッチング	広報	インターネット	視察
アーティストから—94件 支える人から—107件 計—201件	コーディネート実現数—4件 シェアスタジオへの 入居実現数—2件	新聞—7件 計—41件 Web—24件 その他—10件	HAPSウェブサイトアクセス数—157,676件 Facebookフォロワー数—2,821件 Twitterフォロワー数—3,576件	—12件

主催事業

タイトル	開催日	会場	ゲスト	共催等
第8期スタジオ使用開始	2019/4/1～	HAPSスタジオ		
GA TALK 015「可能な世界」	2019/5/20	京都造形芸術大学 人間館NA102教室	スーザン・ノリー	京都造形芸術大学大学院
ALLNIGHT HAPS 2019前期「PORTABILITY」	2019/6/1～9/30	HAPSオフィス1F	長門あゆみ／西永怜央菜／須賀亮平	公益財団法人朝日新聞文化財団
GA TALK 016「祝祭性と現在性:東南アジアアートにみられる共通点」	2019/6/8	キャンパスプラザ京都第3講義室	デビッド・テ	京都造形芸術大学大学院
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第1回講座:「眼差しのバイオニアをつくる基礎と未来」	2019/7/17	キャンパスプラザ京都第4講義室	奥山理子	
GA TALK 017「リサーチ、分析、インタープリテーション—美術はヒストリーとどう向き合うか」	2019/7/22	京都造形芸術大学人間館NA102教室	神谷幸江	京都造形芸術大学大学院
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第2回講座:概論+トーク「芸術実践と人権—マイノリティ、公平性、合意について」	2019/7/27	京都精華大学 明窓館2階201教室	小泉明郎／遠藤水城／あかたちかこ／山田創平	京都精華大学「LGBTQをはじめとするマイノリティの社会包摂を視野に入れたアートマネジメント・プロフェッショナル育成プログラム」
東九条こどもこ近所映画祭	2019/8/5～8/23	THEATRE E9 KYOTO／京都市地域・多文化交流ネットワークセンター		一般社団法人アーツシード京都
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第3回講座:講座+トーク「ローカリティと芸術実践 アーツ前橋「表現の生態系」展の事例より」	2019/8/31	京都精華大学 明窓館2階201教室	住友文彦／今井朋／石倉敬明／山田創平	京都精華大学「LGBTQをはじめとするマイノリティの社会包摂を視野に入れたアートマネジメント・プロフェッショナル育成プログラム」
ALLNIGHT HAPS 2019後期「Kangaru」	2019/10/20～2020/3/27	HAPSオフィス1F	黒木結・中熊友之／大西晃生・林美月／熊野陽平・荒木健志／YANKEECONG・村田のぞみ	公益財団法人朝日新聞文化財団
福祉とアートの噛み合わないトークシリーズ 施設見学ツアー&合宿 予告編「福祉施設で働きたい!?!」	2019/10/25	HAPSオフィス1F	奥山理子／イシワタマリ	山山アートセンター
GA TALK 018「拡張されたフィールド」	2019/10/26	キャンパスプラザ京都第3講義室	アーニャ・ガラチオ	京都造形芸術大学大学院
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第4回講座:まともがゆれる—常講をやめる「スウィング」の実験	2019/10/31	京都芸術センター ミーティングルーム2	木ノ戸昌幸	京都芸術センター
GA TALK 019「ストーリー・タイム」	2019/11/4	京都造形芸術大学人間館NA208教室	リー・ミンウェイ	京都造形芸術大学大学院
GA TALK 020「新しい生活、沈黙とハワイについて」	2019/12/7	京都造形芸術大学人間館NA402教室	田中功起	京都造形芸術大学大学院
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第5回講座:日常使いの現代美術	2019/12/13	京都芸術センター ミーティングルーム2	滝沢達史	京都芸術センター
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第6回講座:芸術と労働	2020/1/11	京都精華大学 黎明館 2F L-201	伊藤まゆみ／三輪晃義／山本麻友美／吉澤弥生／渡邉明也／ほんまなほ	京都精華大学「LGBTQをはじめとするマイノリティの社会包摂を視野に入れたアートマネジメント・プロフェッショナル育成プログラム」
連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアートマネジメント入門」第7回講座:共有空間の獲得	2020/2/13	京都芸術センター ミーティングルーム2	小山田徹	京都芸術センター

OUR SCHOOL

タイトル	開催日	会場	ゲスト	主催
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2019/6/1	HAPSオフィス1F		福地空果梨堂
法律家と一緒に考える、最近の芸術関連事件・表現規制	2019/6/19	HAPSオフィス1F	藤森純	作田知樹
富井大裕トーク「彫刻について」	2019/6/21	HAPSオフィス1F	富井大裕／熊谷卓哉	RC HOTEL 京都八坂
移動／記憶／連続 キオ・グリフィス	2019/7/9	HAPSオフィス1F	キオ・グリフィス	作田知樹
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2019/9/7	HAPSオフィス1F		福地空果梨堂
「ヒューマンライツ&リブ博物館—アートスケープ資料が語るハストリーズ」をふりかえるキュレーターズ・トーク	2019/9/19	HAPSオフィス1F	石谷治寛	around the SEA
Gillian Kayrooz 作品上映展 "Culminate 365"	2019/10/8	HAPSオフィス1F	Gillian Kayrooz	佃七緒
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2019/11/30	HAPSオフィス1F		福地空果梨堂
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2020/1/25	HAPSオフィス1F		福地空果梨堂
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2020/3/7	HAPSオフィス1F		福地空果梨堂

協力事業等

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催等
前谷開催展「Kapsel」	2019/4/5～4/21・27・29・30	FINCH ARTS	スタジオ使用(前谷)	FINCH ARTS
堀井ヒロツグ個展「見えないう川」	2019/4/12～5/12	元澤風小学校	スタジオ使用(堀井)	KG+実行委員会
「タイムライン—時間に触れるためのいくつかの方法」	2019/4/24～6/23	京都大学総合博物館	広報協力	京都大学総合博物館
日本ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランド芸術祭 2019 in Japan「セレブレーション—日本ポーランド現代美術展—」	2019/5/18～6/23	京都芸術センター／ロームシアター京都／ザターミナル キョウト／世界遺産・二条城	スタジオ使用(川田)	京都芸術センター／アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート／ロームシアター京都
「TO SELF BUILD」	2019/5/25～11/24	BnA Alter Museum SCG	スタジオ使用(中田)	BnA Alter Museum
現象と干渉—特装版「失われたモノを求めて」とその展開	2019/7/10～7/24	MEDIA SHOP gallery(2F)	スタジオ使用(池田)	MEDIA SHOP
かみこあにプロジェクト2019	2019/8/10～9/8	秋田県北秋田郡小阿仁村各所	スタジオ使用(前谷)	KAMIプロ・リスタ実行委員会
展覧会「From the Youth」KYOTO ART LOUNGE 2019 #002-Group Exhibition at Gallery of the Youth-	2019/8/31～12/22	青春画廊千北／日曜日のBar	スタジオ使用(川田)・広報協力	ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会
OPEN STUDIO×10	2019/9/6～9	参加スタジオ各所	広報協力・寄稿	Alt Space POST実行委員会
京都アートラウンジ Panel Session アートを買う文化+ Artists Presentation	2019/9/8	スターバックスコヒー京都三条大橋店B1	スタジオ使用(川田)・広報協力	ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会
東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこすプレイベント 松尾恵レクチャー「森村春昌ってどんな人?」	2019/9/15	THEATRE E9 KYOTO 2FコラボオフィスE9	広報協力	京都市
佃 七緒 個展「家と人かたまり継ぎ接いでぼうろ」	2019/9/27～10/6	galleryMain	広報協力	協力:ニュー・ブランシュKYOTO 2019
川田知志展「確実な晴れ。」	2019/9/29～11/25	浄土複合1Fウィンドウギャラリー「StandAlone」	スタジオ使用(川田)	浄土複合
菅かおる個展「光と海」	2019/10/5・6・11～10/27	真宗佛光寺派 長性院／Gallery PARC	広報協力	うみをめぐる会
浄土解放 Jodo Kaihoh	2019/10/26・27	浄土複合	広報・制作協力(山本聖子)	浄土複合
永久に茂らん新道の集い「青写真で残す、私たちの記憶」	2019/11/10	元新道小学校校庭	ブース出展・ワークショップ開催	新道自治連合会・各種団体
東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす	2019/11/16・17	北河原市営住宅跡地ほか	広報協力	京都市
サイトスペシフィック・アート～民俗学者・宮本常一に学ぶ～	2019/11/16～2020/1/13	市原湖畔美術館	広報物提供	市原湖畔美術館
OBJECT	2019/11/23・24	京都岡崎 蔦屋書店 1F	制作協力	OBJECT 実行委員会
ノガミツガーデン・タベストリー制作	2019/12/7・14・28	京都市地域・多文化交流ネットワークセンターほか	広報協力	総合福祉施設 東九条のぞみの園
きりとりめでると未然の墓標(あるいはねこ動画の時代) 2019—2020	2019/12/31～1/13	パーブルームギャラリー	スタジオ使用(守屋)	きりとりめでる／パーブルーム
500m美術館 vol.32 第8回500m美術館賞 グランプリ展	2020/1/25～3/25	札幌大通地下ギャラリー—500m美術館	スタジオ使用(川田)	札幌市
Julia Ehrstrand Workshop,ソノドクラス(単発ワークショップ)	2020/2/1	京都市東山いきいき市民活動センター / 集會室	場所相談	Julia Ehrstrand / 堀内恵
ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム"KIPPU" オル太 「超衆芸術 スタンドプレー」	2020/2/8～2/11	ロームシアター京都ノースホール	滞り場所紹介	オル太
「境界線を遊行する」	2020/2/8～3/1	VOU	スタジオ使用(成田・堀井)	片山達貴／チン ユウジュウ／成田舞／堀井ヒロツグ
Vehicle Vol.1『川田知志×ストラップ』	2020/2/15	HAPSスタジオ	スタジオ使用(川田)	Vehicle
フェアフェア	2020/2/29	BnA Alter Museum	制作協力	黒木結／宇野湧／MIMIC
企画展「楽只小学校跡地を子育て・人権・文化芸術の拠点に」	2020/3/3～3/28	ツラッティ千本	パネル展示	京都市 / NPO法人くらしネット21
半透明のひかり	2020/3/11～3/22	Art Spot Korin	レジデンス協力	JESS LAU / DOKI MIZUHO / なかやまなほみ

トーク等への参加

タイトル	開催日	会場	主催
キャリア授業 (HAPSの活動紹介)	2020/1/10	京都造形芸術大学	京都造形芸術大学美術工芸学科
「HAPSのアーティストサポート—スタジオ紹介から制作・発表の支援まで」	2020/1/10	京都市立芸術大学	京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
トーク「明るくて暗い愛について」(収録)	2020/2/29	VOU	「境界線を遊行する」展

学区内に若手芸術家は必要か(n=188)

学区内における若手芸術家の必要性を確認するため、「六原学区に若手芸術家は必要だと思いますか？」に対して、5件法で回答を求めた。結果は図6のとおりである。「とても思う」と「やや思う」を「必要性認識」としてまとめると、本年度の必要性認識は88.3%となる。なお、これまでの必要性認識は、2013年度で93.8%、2014年度で90.4%、2015年度で91.2%（※）、2016年度で86.3%、2017年度で86.0%、2018年度で85.8%（※）であり、本年度の結果は例年とほぼ同じであることがわかる。

若手芸術家支援意思(n=188)

地元の若手芸術家への支援意思を確認するため、2016年度から「近所に若手芸術家が移住してきたら、積極的に彼らを支援しようと思いますか？」に対して、5件法での回答を求めている。本年度の結果は図7のとおりである。「とても思う」と「やや思う」を「支援意思」としてまとめると、本年度は85.1%（昨年度補正值76.6%）の市民が支援意思をもっているといえる。本年度はここ3年で最も高い値を示した。

若者必要性(n=178)

2016年度から地域における若者の必要性を確認するため、「六原学区にもっと若者が住んだほうがいいと思いますか？」の問いを加え、5件法で回答を求めている。本年度の結果は図8のとおりである。回答のうち「とても思う」と「やや思う」を「若者必要性認識」としてまとめると、回答者の95.5%（昨年度補正值93.9%）が地元で若者が必要だと考えていることがわかる。特に「とても思う」の多さ（75.8%）が特徴的である。ただし、この傾向は例年と同様である。

多様性指向(n=177)

2016年度から地域（六原学区）に多様な人々が住むことに関して、良いことだと思うか否かについて問う項目を加えている。「六原学区に、外国人など異なる文化をもった人々がもっと住んだほうがいいと思いますか？」に対して、5件法で回答を求めた結果が図9である。「とても思う」と「やや思う」をまとめた「多様性指向」は64.4%であり、これは昨年度の調査（補正值54.9%）から10ポイント増加している。

ただし、回答者の居住地別に分析を行ったところ、六原学区内に住む回答者の「多様性指向」は55.4%だったのに対し、学区外の回答者は76.3%であり、20ポイント以上の差が認められた。昨年度は学区内が59.2%、学区外が48.8%であったため、本年度の「多様性指向」の高まりは、学区外の人々の「多様性指向」の増加が原因になっているといえる。つまり、六原学区内での「多様性指向」の高まりは見られず、例年通りの結果であると解するのが妥当である。

観光客指向性(n=178)

2016年度から地域に観光客が訪れることに関して、良いことだと思うか否かについて問う項目を加えている。「六原学区にもっと観光客が増えたほうがいいと思いますか？」に対して、5件法で回答を求めた結果が図10である。「とても思う」と「やや思う」をまとめた「観光客指向性」は40.4%（昨年度補正值36.9%）であり、昨年度と同様に低い値を示している。「どちらともいえない」が4割弱を占めていることから、地域住民の戸惑いが感じられる結果となった。

HAPS認知度の検討

前述の通り、HAPSを認知している回答者の割合が本年度は57.1%に留まり、昨年度の74.2%（※）から大幅に低下した。この結果だけを見ると、HAPSの認知度は大きく下がったことになる。しかし、それは適切な見方なのだろうか。前述の通り、昨年度は「20歳以下」の割合が多かったため、当該年代を除外した補正值を使用しているのに対して、本年度は「20歳以下」も分析対象に加えている。この方法の差が結果に影響を与えている可能性はないだろうか（仮説1）。また、HAPSの事務所がある六原学区の住民と学区外の住民とでは、HAPSの認知度に差が生じている可能性もある。HAPSが地域に根ざした活動を行っていることを鑑みると、六原学区住民の認知度を年度間で比較することで見えてくるものがあるのではないかと（仮説2）。ここでは、これら2つの仮説の検証を通じて、HAPSの認知度を詳細に検討する。

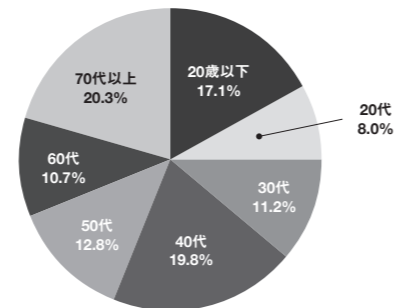


図1.年齢

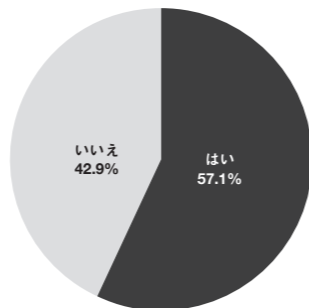


図2.HAPSを知っていますか(市民のHAPS認知)

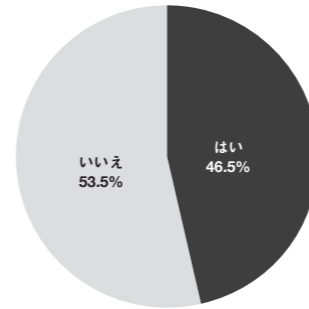


図3.HAPSの事務所を知っていますか(市民のHAPSオフィス認知)

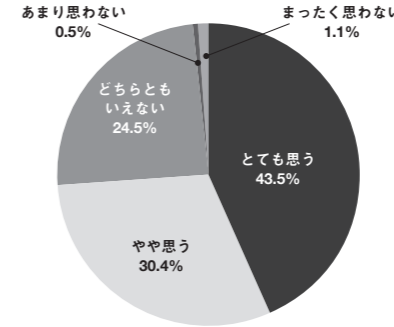


図4.学区にHAPSは必要だと思いますか(HAPSの必要性)

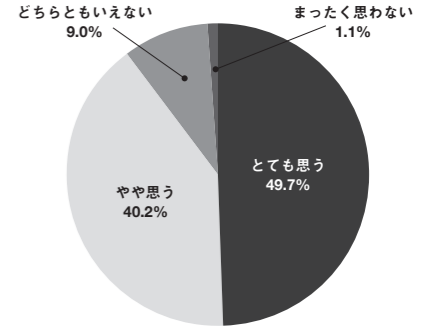


図5.文化や芸術が(音楽・絵画・舞台・映画など)好きですか(文化芸術指向性)

《方法》

〈仮説1の検証〉

年齢がHAPS認知度に与える影響を検討するため、以下の方法で分析を行う。(1)本年度と昨年度の「各年齢層の認知度」を算出し、両年度の「各年齢層の認知度」を比較する、(2)本年度における「20歳以下」の認知度がどの程度かを確認する、(3)本年度も昨年度と同様に「20歳以下」を除いた補正值を算出し、本年度と昨年度の補正值を比較する。

〈仮説2の検証〉

六原学区住民とそれ以外の住民とのHAPS認知度の違いを明らかにするため、以下の方法で分析を行う。(1)学区内と学区外の回答者を弁別し、両年度の「居住地別のHAPS認知度」を算出する、(2)「20歳以下」を除いた補正值としての「居住地別のHAPS認知度(両年度分)」を算出する、(3)本年度と昨年度のHAPS認知度を比較し、その変化を見る。

《結果》

〈仮説1〉

- 結果を記したのが表1（本年度）と表2（昨年度）である。表からも明らかのように、「20歳以下」のHAPS認知度は他の世代と比べ非常に低い。両年度ともに「20歳以下」のHAPS認知度は10%台であり、年度による大きな差はない。
- 表1を見ると、「20歳以下」のみ「いいえ(=非認知)」が極端に多く(87.5%)、他の世代は「はい(=認知)」が多い、もしくは「はい」と「いいえ」が同数(60代)となっている。つまり、本年度の全体的な認知度を「20歳以下」が押し下げている可能性がある。
- 「20歳以下」を除いた補正值のHAPS認知度は65.8%であった。これは「20歳以下」を含めた値(57.1%)から比べると10%近く増加したことになる。それでもなお、昨年度(74.2%)と比べると開きはあるため、続く仮説2の検証で住まいによる差を見ていく。

〈仮説2〉

- まず、本年度の「居住地別のHAPS認知度」を見ていく。学区内の認知度は64.9%なのに対して、学区外では46.2%に留まる。なお、このクロス集計においてPearsonのカイ2乗を行ったところ、1%水準で有意であった。すなわち、学区内と学区外のHAPS認知度は統計的な有意差が認められたことになる。一方、昨年度の「居住地別のHAPS認知度」に関しても、学区内認知度(58.2%)の方が学区外(47.2%)よりも高くなっている。ただし、こちらのクロス集計では統計的な有意差が認められなかった。
- 続いて、「20歳以下」を除いた補正值としての「居住地別のHAPS認知度」を見ていく。本年度の学区内の認知度は77.3%であったのに対して、学区外の認知度は50.7%に留まった。ここには0.1%水準の統計的な有意差が認められた。一方、昨年度の学区内の認知度は80.3%であったのに対して、学区外の認知度は65.1%であった。こちらは10%水準の統計的な有意傾向が示されるに留まった。
- 本年度と昨年度のHAPSの認知度は、いずれも学区内の方が高かった。この結果は「20歳以下」を除いた補正值であっても変わらなかった。〈仮説1の検証〉で「20歳以下」の認知度が著しく低いことを考慮し、補正值で両年度を比較する。すると、学区内認知度に関しては今年度と昨年度の差は3%しかないのに対して、学区外認知度は15%ほどの開きがある。つまり、今年度は学区外の方のHAPS認知度が昨年度と比べて著しく低く、そのことが今年度のHAPS認知度全体の低さに影響していたといえる。

表1.年齢とHAPS認知のクロス表(2019年度)

	ハップスを知っていますか？	
	はい	いいえ
20歳以下	4(12.5%)	28(87.5%)
20代	11(73.3%)	4(26.7%)
30代	13(61.9%)	8(38.1%)
40代	23(62.2%)	14(37.8%)
50代	16(66.7%)	8(33.3%)
60代	10(50.0%)	10(50.0%)
70代以上	29(76.3%)	9(23.7%)
合計	106(56.7%)	81(43.3%)

表2.年齢とHAPS認知のクロス表(2018年度)

	ハップスを知っていますか？	
	はい	いいえ
20歳以下	9(14.5%)	53(85.5%)
20代	8(47.1%)	9(52.9%)
30代	4(40.0%)	6(60.0%)
40代	19(70.4%)	8(29.6%)
50代	14(77.8%)	4(22.2%)
60代	16(100.0%)	0(0.0%)
70代以上	28(87.5%)	4(12.5%)
合計	98(53.8%)	84(46.2%)

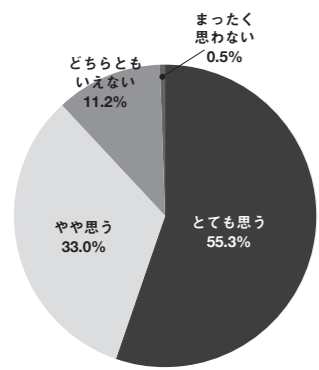


図6. 学区に芸術家は必要だと思いますか (芸術家の必要性)

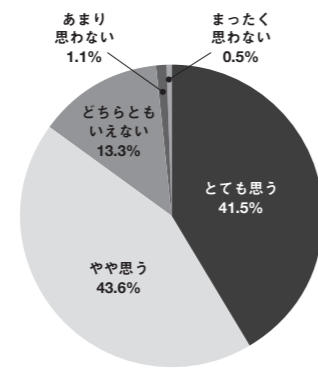


図7. 近所に若手芸術家が移住してきたら、積極的に彼らを支援しようと思えますか (芸術家支援意思)

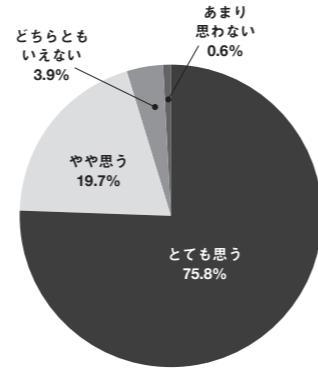


図8. 学区にもっと若者が住んだほうが良いと思えますか (若者必要性)

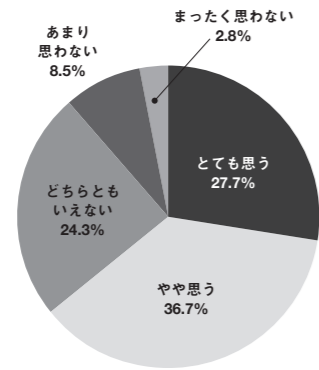


図9. 学区に、外国人など異なる文化をもった人々がもっと住んだほうが良いと思えますか (多様性指向)

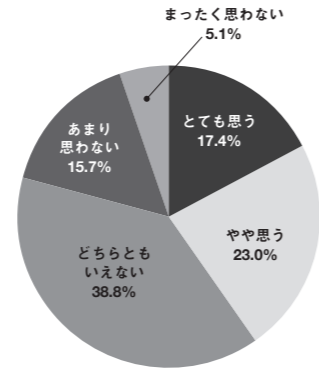


図10. 学区にもっと観光客が増えたほうが良いと思えますか (観光客指向性)

《まとめ》

ここでは、本年度のHAPS認知度の低さの要因を検討するため、年齢別および居住地別のHAPS認知度について、クロス集計を用いた分析を行った。結果として、以下のことが明らかになった。

まず、年齢別にHAPS認知度を調べた結果、「20歳以下」のHAPS認知度は著しく低いことがわかった。したがって、「20歳以下」のデータを除外した昨年度はHAPS認知度が高くなり、「20歳以下」も分析対象に含めた本年度のHAPS認知度は低めになったと考えられる。しかし、本年度のデータから「20歳以下」を除外しても、依然として昨年度と10%近い認知度の開きがあった。

そこで、居住地別の認知度を明らかにするための分析を行った。具体的には、「20歳以下」のデータを除外した状態で、学区内および学区外のHAPS認知度を本年度と昨年度で比較した。すると、昨年度は学区外で65.1%あった認知度が、本年度は50.7%に下がったことが明らかになった。つまり、本年度のHAPS認知度が下がった別の要因として、学区外の認知度が下がったことが影響していると考えられる。しかし、この「下がった」ことは、必ずしもHAPSの認知度の低下を意味しない。なぜなら、学区外の認知度はアンケート回答者のサンプリングによって変動するからである。学区外のアンケート回答者は学区内と違って居住地のばらつきが大きく、当然HAPSとの関係性もまちまちである。それは、アンケートの取り方や取る場所によって結果が大きく変化することを意味する。一方で、学区内の回答者の場合は、HAPSオフィスがある学区に住んでいるという条件において、ばらつきを抑えることができる。したがって、学区外の認知度は年度によってばらつきが生じやすいが、学区内はサンプリングの影響を受けにくく、より信頼性の高い認知度を知ることができる。学区内のHAPS認知度は昨年度とほぼ変わっていないため、上で見たような20%近い認知度の低下があったとは言い切れないであろう。

なお、HAPSオフィスの認知度についても、同様のことが言える。

「大学調査」結果

属性

大学調査 (2019) では、嵯峨美術大学、京都造形芸術大学、京都精華大学、京都市立芸術大学の4大学からデータを得た。調査は本年度 (2019) で8年目である。

本年度の回答数は435件であった (昨年度調査は391件)。回答者の基本的な属性は次の通りである。結果は有効回答数を母数とした割合で算出し、各項目の有効回答数は「n=〇〇」の形で表記する。

- 回答者のジェンダー構成 (n=429) は、79.7%が女性、20.3%が男性であった
- 回答者の年齢構成 (n=427) は、平均が22.56歳、最年少は19歳、最高齢は70歳であった
- 各大学の割合 (n=435) は、図11のとおりである。京都市立芸術大学 (36.3%) が最も多く、嵯峨美術大学 (17.5%) が最も少なかった。
- 回答者は、学部学生が81.1%、大学院生が18.9%であった (n=435)。
- 回答者の出身地 (n=435) は、京都 (府市) が21.6%、京都以外 (国外含) が78.4%であった。
- 各大学の回答者に占める京都市出身者の割合は以下の通りである (n=435)。
 - 嵯峨美術大学の回答者のうち京都市出身者の割合：19.7% (昨年度は28.6%)
 - 京都造形芸術大学の回答者のうち京都市出身者の割合：17.5% (昨年度は17.5%)
 - 京都精華大学の回答者のうち京都市出身者の割合：24.6% (昨年度は16.0%)
 - 京都市立芸術大学の回答者のうち京都市出身者の割合：24.0% (昨年度は28.7%)

卒業後の制作意思

「卒業後はアーティストとして制作を継続していこうと思えますか (Q3-1)」との間に対する回答 (n=432) は図12のとおりであった。この項目に関して「思う」「やや思う」を【積極層】、「どちらとも言えない」「あまり思わない」「思わない」を【消極層】とした場合、各大学の比率は以下のようになる。

- 嵯峨美術大学 (n=76) 積極層59.2%：消極層40.8% (昨年度71.4%：28.6%)
- 京都造形芸術大学 (n=103) 積極層52.9%：消極層47.1% (昨年度48.5%：51.5%)
- 京都精華大学 (n=81) 積極層45.7%：消極層54.3% (昨年度55.6%：44.5%)
- 京都市立芸術大学 (n=158) 積極層57.1%：消極層42.9% (昨年度50.6%：49.4%)

卒業後の京都での制作意思

卒業後もアーティストとして活動しようと考えている学生、あるいはまだ迷っている学生 (Q3-1 で「思う」「やや思う」「どちらとも言えない」と回答した学生) に「活動拠点」について以下の質問を行った。

「卒業後も京都を拠点に制作を継続したいと思いますか (Q3-2)」との間に対する回答は図13のとおりであった。「制作場所は居住地とは別に必要だと思いますか (Q3-3)」との間に対する回答は図14のとおりであった。「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか (Q3-4)」との間に対する回答は図15のとおりであった。

上記3項目について「思う」「やや思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下ようになる。いずれの項目も例年と同様の傾向が示された。

「卒業後も京都を拠点に制作を継続したいと思いますか (Q3-2)」 (n=338) 48.2% (2013) →41.9% (2014) →43.3% (2015) →42.9% (2016) →32.5% (2017) →43.7% (2018) →42.0% (2019)

「制作場所は居住地とは別に必要だと思いますか (Q3-3)」 (n=325) 66.0% (2013) →53.2% (2014) →55.2% (2015) →57.1% (2016) →56.9% (2017) →56.4% (2018) →55.1% (2019)

「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか (Q3-4)」 (n=311) 74.3% (2013) →66.5% (2014) →69.9% (2015) →68.8% (2016) →67.2% (2017) →63.5% (2018) →63.7% (2019)

京都での作品発表意思

「京都で作品の発表をしたいと思えますか (Q4)」との間に対する回答は図16のとおりであった。「思う」「やや思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下ようになる。こちらも例年と比較して大きな変化は見られない。

「京都で作品の発表をしたいと思えますか (Q4)」 (n=430) 63.2% (2013) →60.1% (2014) →56.1% (2015) →56.8% (2016) →55.7% (2017) →57.7% (2018) →57.9% (2019)

専門家との接触意思

「大学を卒業した後も専門家 (キュレーター等) に作品を見せる機会を得たいと思えますか (Q5)」との間に対する回答は図17のとおりであった。「思う」「やや思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下ようになる。こちらは例年と比較するとやや低下している。

「大学を卒業した後も専門家に作品を見せる機会を得たいと思えますか (Q5)」 (n=431) 55.1% (2013) →59.7% (2014) →57.5% (2015) →54.9% (2016) →53.4% (2017) →60.1% (2018) →50.6% (2019)

HAPSの認知

「HAPS（東山アーティスト・プレイズメント・サービス）をご存知ですか（Q6）」との間に対する回答は図18のとおりであった。本項目で「名前も事業内容も知っている」「名前は知っている」「聞いたことがある気がする」と回答した学生を「HAPS認知」とまとめると、その割合は以下の通りになる。こちらは例年と同様の結果となった。

「HAPSをご存知ですか（Q6）」（n=430） 42.9%（2013）→48.6%（2014）→50.0%（2015）→51.6%（2016）→48.1%（2017）→48.9%（2018）→46.5%（2019）

「京都での活動意思」と「出身地」の関係

「卒業後も京都を拠点に制作を続けたいと思いますか（Q3-2）」と「出身地（京都市／京都以外）の関係をみると、京都市出身者（n=70）の68.6%（昨年度54.7%）が「卒業後も京都で活動したい」と考えている一方で、京都以外出身者（n=268：うち、国外出身者は17名）で「卒業後も京都で活動したい」と考えている学生は35.1%（昨年度39.8%）である。このクロス集計においてPearsonのカイ2乗検定を行ったところ、0.1%水準で有意差が認められた。「京都での活動意思」と「出身地の違い（京都出身／それ以外）」とが強く関係していることを示す結果となった。

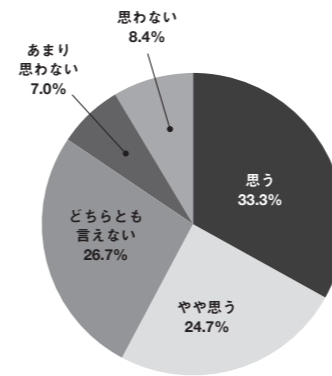


図16. 京都で作品の発表をしたいと思いますか

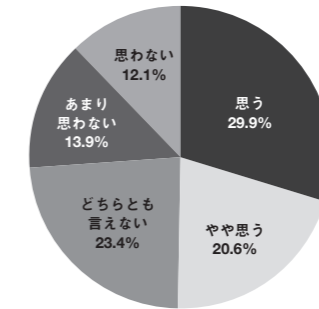


図17. 大学を卒業した後も専門家に作品を見せる機会を得たいと思いますか

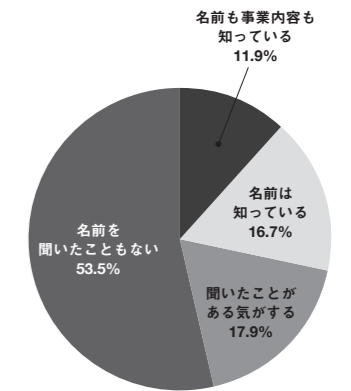


図18. HAPSを知っていますか（大学生のHAPS認知）

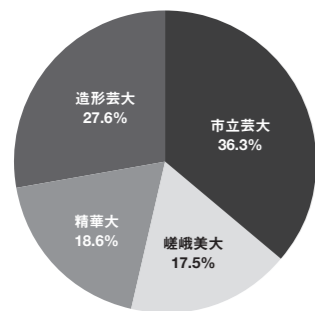


図11. 調査票に占める各大学の割合

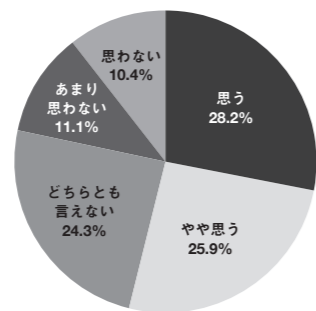


図12. 卒業後はアーティストとして制作を続けたいと思いますか

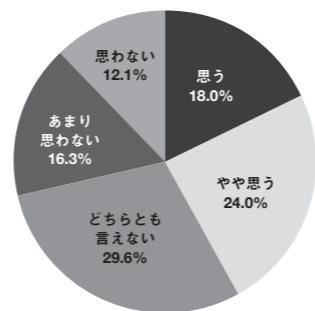


図13. 卒業後も京都を拠点に制作を続けたいと思いますか

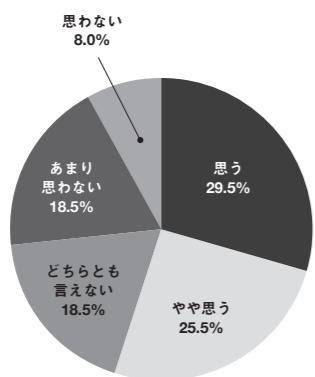


図14. 制作場所は居住地とは別に必要だと思いますか

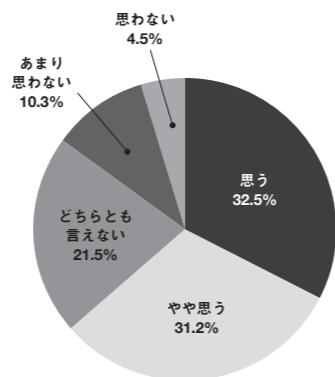


図15. 制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか

全体まとめ

市民調査について

本年度は、昨年度と違い全世代の回答を用いて分析を行った。すると、HAPSの認知と事務所の認知が例年と比べて下がっているように見える結果となった。しかし、年代別および居住地別の認知度を見ると、以下の2点のことがわかった。すなわち、(1)「20歳以下」の若年層のHAPS認知度が著しく低いこと、(2) 学区外の人々のHAPS認知度は学区内の人よりも低く、特に本年度はその差が顕著に見られたこと、の2点である。さらに、(2) では学区内の人々の認知度は例年と大きく変化しておらず、認知度も8割弱という高い値が示された。つまり、本年度のHAPS認知度および事務所の認知度が下がったのは、若年層を分析に加えたことと、HAPSのことを知らない学区外の回答者が例年より多かったことが影響していたと考えられる。一方で、学区内の人々によるHAPSおよび事務所の認知度は例年通り高い値だった。このことは、HAPSの認知度そのものが下がったとは言えないことを示すものである。しかし、若年層によるHAPS認知度が低いことは今後の課題として指摘することができる。

また、HAPSの必要性に関連して、HAPSのことを知る人からの評価が非常に高いことが示された。これは本年度の成果というよりは、これまでHAPSが地域とのコミュニケーションを繰り返してきたことの成果であるといえる。

他の項目については概ね例年と同様の結果が見られた。ただし、「若手芸術家支援意思」と「多様性指向」は昨年度と比較して10ポイントの増加が見られた。「若手芸術家支援意思」の増加は非常に頼もしい結果であり、芸術家に対する地域住民の信頼度が高まっている証左かもしれない。今後は、この結果を支持する事例や地域住民の声の収集が必要となつてこよう。一方で、「多様性指向」に関しては、学区外の回答者（＝地域の非当事者）の数値の高まりが影響したものであり、学区内（＝地域の当事者）の「多様性指向」は例年と同様であった。この点は今後の課題として引き続き取り組んでいく必要があるだろう。

大学調査について

昨年度と比べて基本属性に大きな変化はない。「卒業後の制作意思」は年度によって結果にばらつきがあるため、昨年度との変化をそのまま学生層の変化と捉えることはできない。大学生の「HAPS認知」は一定の水準を維持している。また、京都市出身者と京都以外出身者の間で、「卒業後も京都で活動したい」と答える割合の差が昨年度よりもさらに大きくなっていった。京都の芸術系大学の学生が卒業後に京都で活動しない場合、出身地が京都外であることから、居住地と制作場所の確保ができずに活動をあきらめている可能性が引き続き示唆される。

また「卒業後も京都を拠点に制作を続けたいと思いますか（Q3-2）」、「制作場所は居住地とは別に必要だと思いますか（Q3-3）」、「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか（Q3-4）」の3項目に関しては、「そう思う」「ややそう思う」の合計割合には大きな変化は見られなかった。



左から櫻岡聡、埴美智子、沢田朔、藏原藍子、岡永遠、石井絢子



遠藤水城

HAPS実行委員会(敬称略)

実行委員長

遠藤水城(キュレーター)

副実行委員長

佐藤知久(京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員/教授)

井上えり子(京都女子大学家政学部生活造形学科准教授)

尾崎学(京都市文化市民局文化芸術都市推進室室長)

加須屋明子(京都市立芸術大学美術学部教授)

勝治真美(京都芸術センタープログラムディレクター)

後藤創平(京都新聞編集局運動部記者)

後藤結美子(京都市美術館学芸課学芸員)

菅谷幸弘(六原自治連合会事務局長)

中村英樹(京都市東山区役所地域力推進室まちづくり推進課長)

福永敏三(新道自治連合会会長)

松本泰章(嵯峨美術大学芸術学部造形学科長)

ヤノベケンジ(京都造形芸術大学美術工芸学科教授)

山田創平(京都精華大学人文学部准教授)

アドバイザー(順不同,敬称略)

建昌哲(京都芸術センター館長/多摩美術大学学長)

椿昇(京都造形芸術大学美術工芸学科長)

島本澁(京都精華大学芸術学部名誉教授)

名和晃平(アーティスト)

高嶺格(アーティスト)

小山登美夫(小山登美夫ギャラリー株式会社代表取締役)

松尾恵(MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w 代表)

吉岡洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授)

潮江宏三(京都市立芸術大学名誉教授)

富永茂樹(京都市立芸術大学名誉教授)

村上圭子(京都市副市長)

一般社団法人HAPS

代表理事

遠藤水城

理事

藏原藍子 四元秀和

監事

植木克明

事務局

石井絢子 岡永遠 櫻岡聡 沢田朔 埴美智子

2019年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
京都市「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり事業」

HAPS 事業報告書 2019年度

発行日 2020年3月31日

発行元 一般社団法人HAPS
 企画・編集 一般社団法人HAPS事務局
 編集 松永大地
 デザイン 吉田健人 (bank to LLC.)
 撮影 大西正一、片山達貴、呉屋直、佐古晴弘、中谷利明、成田舞 (Neki inc.)、堀井ヒロツグ、前谷開
 印刷 有限会社修美社、株式会社グラフィック
 協力 木ノ戸昌幸、松岡咲子、山口恵子、岡本秀、片山達貴、田島吉廣、三島峯治、三島幸子、鐘ヶ江勝、堀井ヒロツグ、NPO法人若者と家族のライフプランを考える会、田中功起、京都造形芸術大学グローバル・ゼミ、丸鬼みずほ、上村絵梨子、オル太、神谷幸江、藤本悠里子、黒木結、池田剛介、マイケル・ウィッテル、奥山理子、堀内恵、山本麻紀子、総合福祉施設 東九条のぞみの園、中屋敷智生、一般社団法人アーツシード京都、山田創平(敬称略)

一般社団法人HAPS
 〒605-0841 京都市東山区大和大路通五条上る山崎町339
 339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0841, JAPAN
 E-MAIL info@haps-kyoto.com
 TEL 075 525 7525 FAX 075 525 7522
 http://haps-kyoto.com

